

大雪山国立公園登山道管理水準 2015年改定版



中岳分岐付近から北鎮岳方面を望む

目 次

序	1
1. 大雪山グレード（利用体験ランク）	3
2. 登山道の保全対策ランク	13
3. 登山道管理水準の野営指定地、避難小屋への適用	23
4. 登山の心得	26
補足. 大雪山の登山環境	27
補足. 大雪山国立公園における登山道管理水準等検討会	29
大雪山に関する情報	30
用語集	31
分割図	33

平成27年6月
環境省北海道地方環境事務所

序

《設定の背景～登山道管理水準の見直し～》

大雪山国立公園では、利用の中心施設である登山道を適切に保全管理*するため、大雪山特有の自然条件、利用状況等を勘案し、登山道*の区間毎の地域特性に応じて複数の管理方法（管理レベル）を定めた「大雪山国立公園登山道管理水準」を策定するとともに、登山者自身が自己責任の下で登山や自然環境に配慮した行動を行う上での大雪山における登山の心得をまとめ、平成18年3月に「大雪山国立公園登山道管理水準及び登山の心得」として公表し、登山道の保全管理や登山者への普及啓発に努めてきました。

近年、局地的な集中豪雨による林道等の崩落による通行止めや登山道の急激な荒廃進行、ツアー登山から個人登山への登山形態変化や外国人登山者の増加等、大雪山国立公園の登山道の荒廃状況や利用状況が策定時から大きく変わっています。また登山道の保全管理についても「協働型管理*」と呼ばれる地域内外の一般登山者や山岳団体、行政機関等の多様な主体が保全管理作業に参画する取組が進められる等、新しい活動が見られています。

一方で、現行の登山道管理水準は、登山道の保全管理に携わる行政機関や山岳団体等の関係者（以下「山岳関係者」という。）や登山道を利用する登山者に十分に認知・活用されていない等、以下の項目について課題が挙げられています。

このような状況を鑑み、北海道地方環境事務所では、平成25年度より登山道の現況及び周辺状況に関する基礎調査を実施し、「大雪山国立公園登山道管理水準等検討会」を開催し、「大雪山国立公園登山道管理水準及び登山の心得」の見直しを進めてきました。

見直しにあたり、登山道の区間毎に、どう整備し利用されるべきかを示し、そのために必要な自然環境のあり方を定めていた「保護・利用体験ランク」と、自然環境の脆弱さや現況の荒廃状況等に応じて設定されていた「保全対策ランク」を分けて再設定することとしました。なお、「保護・利用体験ランク」という名称については、登山者への周知の促進も見据え「大雪山グレード（利用体験ランク）」と変更しています。さらに、今回の見直しでは、野営指定地*と避難小屋にも登山道管理水準を適用しています。

課題1：対象路線の見直し、野営指定地への適用検討が必要

- ・前回対象外の路線*の取り扱い（公園計画*に定められていない路線）
- ・利用できない路線*の取り扱い（崩落、廃道*、管理者不在*、林道通行止め）
- ・前回対象外の野営指定地等の取り扱い

課題2：登山道の現状が現行の登山道管理水準と合っていない

- ・現状と登山道管理水準が整合していない区間の抽出とその要因の分析
- ・登山道管理水準の設定方法の見直し
- ・現状を踏まえた区間への当てはめ直し

課題3：登山道管理水準が認識、活用されていない

- ・大雪山登山道に係る多様な主体（行政・山岳関係者）の参画による見直し
- ・国内外から訪れる登山者への普及・広報を意識した表現、活用法の見直し

*は、用語集に記載されている用語

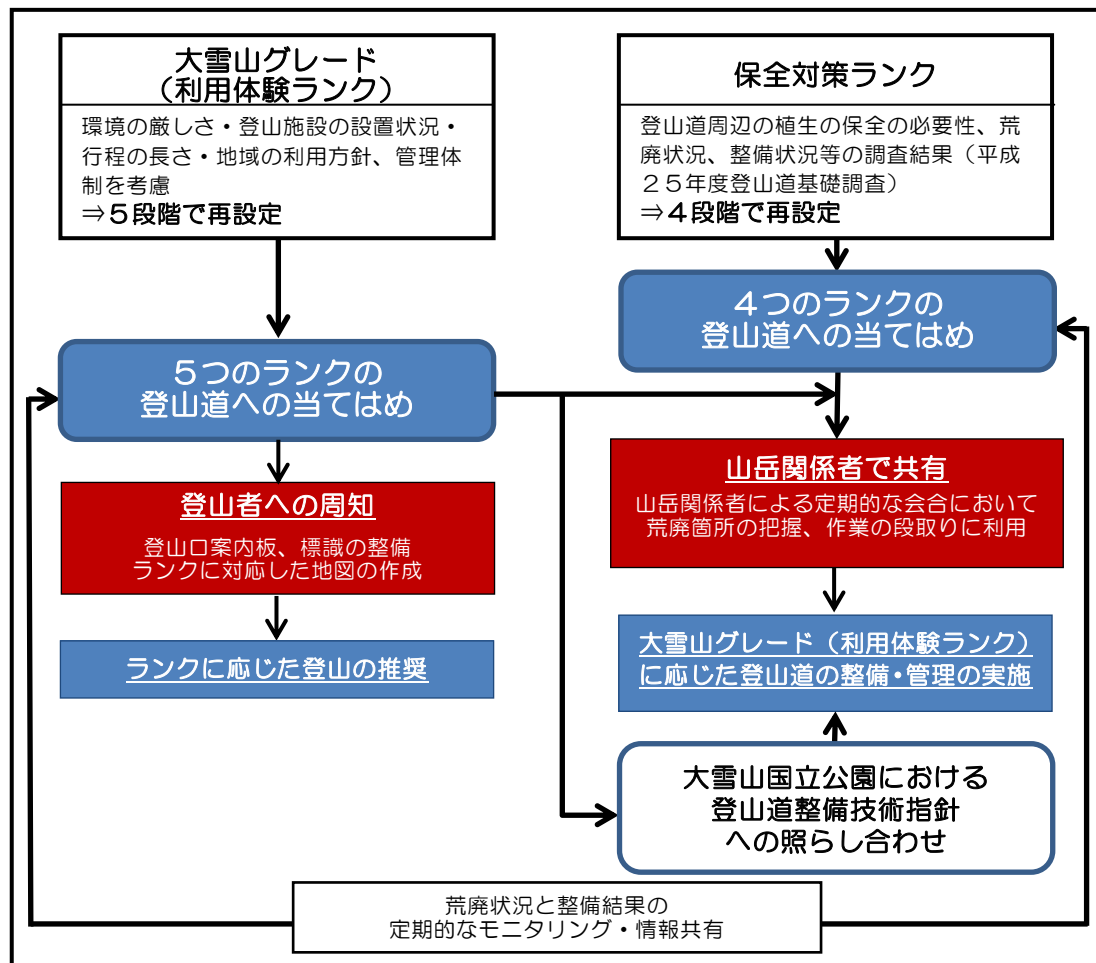
《大雪山国立公園登山道の新たなランク付けの構成と活用》

大雪山国立公園の新たな登山道ランクは、「大雪山グレード（利用体験ランク）」と「保全対策ランク」により構成されます。

大雪山グレード（利用体験ランク）は、登山道の区間毎に異なる自然条件や立地、現状の管理状況や利用状況をもとに、登山者に提供する登山体験の程度や登山者が自己責任で行動判断を行う時の目安として5段階で設定したものです。

保全対策ランクは、登山道周辺の植生の脆弱性及び登山道の荒廃の程度や整備状況等を勘案し、登山道周辺の自然植生や登山道*及び登山施設*の保全上の課題の程度を4段階で設定したものです。

モニタリングにより把握された登山道・登山施設の状況は、定期的な会合（※）において山岳関係者間で共有し、必要に応じて保全対策ランクの見直しを行います。保全管理の作業は、別途作成する「大雪山国立公園における登山道整備技術指針」を参考に大雪山グレードに応じた適切な工法等を選定して実施します。登山者に対しては、大雪山グレードを明示した案内版や標識を整備し、ランクに応じた登山利用を促します。（※定期的な会合：大雪山国立公園山岳関係者による情報交換会や各地区における協議会など）



大雪山の山岳環境の次世代への継承・遭難事故の抑制

1. 大雪山グレード（利用体験ランク）

《大雪山グレード（利用体験ランク）とは》

大雪山国立公園は、日本最大の山岳国立公園で、登山道の総延長は約 300 kmに及びます。登山者でにぎわうメインルートや自然のままの静寂なルート等、登山の初級者から熟達者まで楽しめる多彩なルートがあり、毎年多くの登山者が訪れています。

雄大な原生自然の中の山歩きは、大雪山国立公園の大きな魅力です。しかしながら、主稜部の自然条件は厳しく、未熟な登山者の遭難事故が後を絶ちません。また近年、至るところで登山道の荒廃が進み、高山植物や貴重な地形に損傷が生じており、生態系への影響が懸念されています。一方で登山施設の整備や保全管理は、大雪山の持つ自然環境・景観を損なわないように行わなければなりません。

大雪山グレードでは、登山道の区間毎に異なる大雪山特有の自然条件や立地、現状の管理状況や利用状況を元に、5つのランクを設定します。管理者は、大雪山グレードに応じた登山道の保全修復や維持管理を行い、登山道周辺の自然環境及び奥深い雰囲気の持続的保全と大雪山らしい登山体験の提供を図ります。また、各ランクでは、登山者が体験する雰囲気等の程度（区間における「原始性*」「静寂度*」又は「気軽さ」等から体験するもの）も異なるため、この区分により、登山者が自己責任で行動判断*を行う時の目安（区間における行動判断の要求度や難易度）を定め、力量に応じた登山を推奨します。

国内外からの登山者にもランクがわかるよう、各登山口やランクが変わる地点に、日本語・英語・ピクトサイン付でランクを明示した案内板や標識を整備します。



出典：SwitzerlandMobility website

図 大雪山グレードの活用例（標識、マップ）






《大雪山グレード（利用体験ランク）の設定》

大雪山グレードは、夏山シーズン*を対象とし、大雪山国立公園の利用可能な路線*（公園計画*に指定されている歩道、その他一定の登山利用が見られる道も含む）について、下図に示す評価項目から、行動判断の要求度・難易度、登山体験の程度、利用想定者といった各構成要素を総合的に評価し、5つのランクに当てはめて定めます。各登山道の区間毎のランク設定の詳細は『適用図・適用表』を参照して下さい。

大雪山グレードの構成要素及び評価項目

構成要素		ランク				
		グレード5	グレード4	グレード3	グレード2	グレード1
行動判断の要求度・難易度						
評価項目	天候悪化時のリスク回避の難度	高い			低い	
	登山口等からのアクセス	遠い			近い	
	登山施設の充実度	簡素			充実	
	維持管理の程度	低い			高い	
登山体験の程度						
評価項目	環境の雰囲気	原生的・原始的			都市的・人為的	
	利用密度	低い			高い	
	利用の雰囲気	静か			にぎやか	
	登山のレベル	挑戦的			手軽	
利用想定対象者		登山者			観光客含む	

大雪山グレード（利用体験ランク）

	グレード 5	大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート <ul style="list-style-type: none"> • 地形的条件等から天候判断がより難しく、且つ登山口からの距離や避難小屋の間隔が長くエスケープ*を取りづらい登山ルートや徒渉*や岩場通過等高度な技術を要する登山ルート • 自然の雰囲気保持を最優先とした登山ルート • 登山者自らのリスク管理が必須とされ、極めて高度な行動判断を要求される登山ルート
	グレード 4	大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート <ul style="list-style-type: none"> • 地形的条件等から天候判断がより難しい登山ルートや登山口、ロープウェイ駅からの距離が長く日帰りに適さない登山ルート • 自然の雰囲気保持を最優先とした登山ルート • 登山者自らのリスク管理が必要とされ、高度な行動判断を要求される登山ルート
	グレード 3	大雪山の自然を体感する登山ルート <ul style="list-style-type: none"> • 登山口、ロープウェイ駅からのアクセスが比較的良く、日帰り程度の距離で設定された登山ルート • 歩行の快適性よりも自然の雰囲気保持を優先した登山ルート • 登山者自らの一定のリスク管理が必要とされ、一定の行動判断を要求される登山ルート
	グレード 2	大雪山の自然とふれあう軽登山ルート <ul style="list-style-type: none"> • 登山口、ロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的短距離で設定された登山ルート • 段差処理*、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている登山ルート
	グレード 1	大雪山の自然とふれあう探勝ルート <ul style="list-style-type: none"> • 温泉施設やロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的高低差が少なく設定された一般観光利用者向けルート • 段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている探勝ルート

※公園計画に定められた路線のうち、林道等登山口までのアクセス路の通行止め、登山道の管理状況から登山者に案内ができないものについては、「非適用」として「大雪山グレード」を適用していません。



大雪山グレード (利用体験ランク) 適用図

大雪山グレード（利用体験ランク） 適用表（1）

地域	分割図	No	区 間	大雪山グレード (利用体験ランク)
I 北大 雪 地 域	D01	No1	ニセイカウシュッペ山登山口⇒ニセイカウシュッペ山	グレード3
		No2-1	層雲峡園地⇒朝陽山	(グレード3)
		No2-2	パノラマ台分岐⇒パノラマ台	非適用
		No3	銀河流星ノ滝園地	グレード1
		No4	紅葉谷入口⇒紅葉滝	グレード1
II 表 大 雪 地 域	D02	No5-1	層雲峡黒岳林道口⇒黒岳（五合目園路を除く）	グレード2
		No5-2	黒岳⇒黒岳石室分岐	グレード3
		No5-3	黒岳石室分岐⇒桂月岳	グレード3
		No6-1	黒岳石室分岐⇒北海沢	グレード3
		No6-2	北海沢⇒北海岳分岐⇒間宮分岐	グレード4
		No6-3	黒岳石室分岐⇒お鉢平展望台	グレード3
		No6-4	お鉢平展望台⇒北鎮分岐⇒間宮分岐	グレード4
		No7	間宮分岐⇒旭岳	グレード4
		No8	姿見の池園地⇒旭岳	グレード3
		No9	愛山溪温泉雲井ヶ原入口⇒雲井ヶ原湿原	非適用
		No10-1	愛山溪温泉登山口⇒沼ノ平分岐	グレード2
		No10-2	三十三曲坂分岐⇒滝の上分岐	グレード3
		No11	愛山溪温泉登山口松仙園分岐⇒八島分岐	非適用
		No12-1	沼ノ平分岐⇒銀明水	グレード3
		No12-2	銀明水⇒北鎮分岐	グレード4
		No12-3	愛別岳分岐⇒愛別岳	グレード4
		No13-1	沼ノ平分岐⇒六ノ沼	グレード2
		No13-2	六ノ沼⇒裾合平分岐	グレード3
		No13-3	裾合平分岐⇒姿見の池園地	グレード2
	No14	当麻乗越⇒安足間岳分岐	グレード4	
	No15-1	裾合平分岐⇒中岳温泉	グレード3	
	No15-2	中岳温泉⇒中岳分岐	グレード4	
	D03	No16	姿見の池園地	グレード1
		No17	勇駒別園地⇒姿見の池園地	グレード2
		No18-1	勇駒別園地（見晴台コースを除く）	グレード1
		No18-2	見晴台コース	グレード2
		No19	天人峡旭岳温泉方面登山口⇒勇駒別園地	グレード3
		No20-1	天人峡羽衣・敷島の滝入口⇒羽衣の滝滝見場	(グレード1)
		No20-2	羽衣の滝滝見場⇒敷島の滝	非適用
	III 高 根 ヶ 原 地 域	D04	No21	北海岳分岐⇒白雲岳避難小屋分岐
No22			白雲岳避難小屋分岐⇒忠別岳	グレード5
No23-1			銀泉台⇒第一花園	グレード2
No23-2			第一花園⇒赤岳	グレード3
No23-3			赤岳⇒白雲岳	グレード4
No24-1			大雪高原温泉⇒第二花畑	グレード3
No24-2			第二花畑⇒緑岳	グレード4
No24-3			緑岳⇒小泉岳分岐 ⇒白雲岳避難小屋分岐	グレード4
No25-1			大雪高原温泉⇒ヤンベ温泉分岐⇒緑の沼	グレード2
No25-2			緑の沼⇒三笠新道分岐⇒ヤンベ温泉分岐	グレード3
No25-3			三笠新道分岐⇒高根ヶ原分岐	グレード5(注)

大雪山グレード（利用体験ランク） 適用表（2）

地域	分割図	No	区 間	大雪山グレード (利用体験ランク)
IV トム ラウ シ山 系地 域	D05 D06	No26	忠別岳⇒トムラウシ山	グレード5
		No27-1	トムラウシ山⇒オプタテシケ山	グレード5
		No27-2	台地ゲート⇒三川台	グレード5(注)
	D07	No28-1	天人峡化雲岳方面登山口⇒滝見台	グレード2
		No28-2	滝見台⇒化雲岳	グレード4
	D08	No29	クチャンベツ沼ノ原登山口⇒五色分岐	グレード4
	D06	No30-1	ヌプントムラウシ温泉登山口⇒石狩分岐	非適用
		No30-2	石狩分岐⇒沼ノ原分岐	グレード5
		No31-1	トムラウシ温泉登山口⇒前トム平	グレード4
		No31-2	前トム平⇒北沼分岐	グレード5
		No31-3	短縮コース登山口⇒温泉コース分岐	グレード4
		No32	霧吹ノ滝入口⇒霧吹ノ滝	非適用
	V 十 勝 岳 地 域	D09 D10	No33	オプタテシケ山⇒十勝岳 ⇒美瑛富士
No34			十勝岳⇒富良野岳	グレード4
No35			富良野岳⇒布札別登山口	グレード4
No36			美瑛富士登山口⇒美瑛富士避難小屋分岐 ⇒美瑛富士避難小屋・オプタテシケ方面分岐	グレード3
No37-0			白金温泉望岳台歩道口⇒望岳台	非適用
No37-1			白金温泉ウグイス谷歩道口⇒望岳台	グレード2
No37-2			望岳台⇒十勝岳	グレード3
No38			雲ノ平分岐⇒美瑛富士分岐 ⇒十勝岳・美瑛富士分岐	グレード3
No39-1			吹上温泉十勝岳方面登山口⇒白銀荘分岐 ⇒望岳台南分岐	グレード2
No39-2			十勝岳温泉西分岐⇒十勝岳温泉吹上温泉方面口 ⇒旧国民宿舎	グレード2
		No40	吹上温泉三段山方面登山口⇒三段山分岐	グレード3
D10		No41	十勝岳温泉登山口⇒上富良野岳 ⇒富良野岳肩分岐	グレード3
		No42	十勝岳新得登山口⇒新得コース分岐	グレード4
		No43-0	布札別登山口分岐⇒不動の滝入口との連絡部	非適用
		No43-1	不動の滝入口⇒勝竜ノ滝	グレード5
		No43-2	富良野岳分岐⇒勝竜ノ滝	グレード5
	No43-4	滝・沼コース分岐⇒五反沼	非適用	


大雪山グレード（利用体験ランク） 適用表（3）

地域	分割図	No	区 間	大雪山グレード (利用体験ランク)
VI 東 大 雪 地 域	D11	No44-1	ポンユニ石狩沢登山口⇒十石峠	非適用
		No44-2	十石峠⇒ユニ石狩岳	グレード3
		No45	ユニ石狩岳三股登山口⇒十石峠	グレード3
		No46	十石峠⇒シュナイダーの肩	グレード4
		No47-1	シュナイダー登山口⇒石狩岳	グレード4
		N047-2	石狩岳⇒石狩分岐	グレード5
	D12	No48	十六ノ沢(杉沢)コース登山口⇒ニベソツ山	グレード4
		No49	幌加温泉登山口⇒前天狗岳分岐	非適用
	D13	No50	糠平コース新登山口⇒ウペペサンケ山西ピーク	グレード3
		No51-1	菅野温泉東コース登山口⇒菅野温泉東コース分岐	非適用
		No51-2	菅野温泉西コース登山口⇒ウペペサンケ山西ピーク	非適用
	VII 糠 平 然 別 地 域	D14	No52-1	天宝山登山口⇒天宝山
No52-2			軌道跡トンネル⇒鉄道資料館	非適用
No52-3			鉄道資料館⇒メトセツ	グレード1
D15		No53	南ペトウトル山登山口⇒南ペトウトル山	グレード2
		No54	白雲山登山口⇒白雲山土幌高原登山口	グレード2
		No55-1	駒止湖入口⇒東ヌプカウシヌプリ登山口	グレード1
		No55-2	東ヌプカウシヌプリ登山口⇒東ヌプカウシヌプリ	グレード2
		No56	西ヌプカウシヌプリ登山口⇒西ヌプカウシヌプリ	グレード2
備 考	No2-1 (グレード3) -括弧付き-	現在、朝陽山付近はヤブが著しいなど一部区間通行止めとなっています。今後管理に当たり地域の協力も必要となるため『グレード3』を目指す意図で括弧付き『(グレード3)』です。		
	No25-3 グレード5(注) -図中点線-	三笠新道分岐から高根ヶ原分岐の三笠新道は、ヒグマの採餌地を横断する道であることから、ヒグマとの軋轢防止のため、毎年ヒグマの定着が確認される7月初旬以降登山道を閉鎖しています。利用期間は例年6月中旬から7月初旬と極めて限定的で、残雪期に利用するルートとなります。		
	No20-1 (グレード1) -括弧付き-	羽衣の滝滝見場へのルートは、現在通行止めで再開の見通しが明確ではない登山道ですが、再開された際には『グレード1』を適用する意図で括弧付き『(グレード1)』です。		
	No27-2 グレード5(注) -図中点線-	台地ゲートから三川台のルートは、一般供用された登山道ではありません。所定の手続きをとり、自己責任で利用して下さい。		
	非適用	公園計画に定められた路線のうち、林道等登山口までのアクセス路の通行止め、登山道の管理状況から登山者に案内ができないものについては、「非適用」として「大雪山グレード」を適用していません。		

《大雪山グレード（利用体験ランク）の適用事例》

大雪山グレードの登山道への適用事例はつぎのとおりです。

グレード5の事例：オプタテシケ山～三川台～トムラウシ山

	グレード 5	大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート <ul style="list-style-type: none">・地形的条件等から天候判断がより難しく、且つ登山口からの距離や避難小屋の間隔が長くエスケープを取りづらい登山ルートや徒渉や岩場通過等高度な技術を要する登山ルート・自然の雰囲気保持を最優先とした登山ルート・登山者自らのリスク管理が必要とされ、極めて高度な行動判断を要求される登山ルート
---	-----------	---


この区間は、大雪山国立公園の中でも最も人為的な整備が少ない登山道で、分岐における指導標識*、主たる山に設置された山頂標識以外の人工構造物は設置されていません。遅くまで大きな雪渓が残る箇所やヤブ化した区間があり、ヒグマも多く生息しています。

ルート途中に野営指定地はあるものの、避難小屋はありません。登山口から遠くエスケープルートもない区間であるため、行程管理、天候判断等きわめて高度な行動判断が要求されるルートです。

原始性の高い自然の雰囲気保持を最優先とし、指導標識等の既存施設の確認等必要最小限の管理を行っています。



グレード4の事例：北海岳分岐～白雲岳分岐～白雲岳避難小屋


	グレード 4	大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート <ul style="list-style-type: none">・地形的条件等から天候判断がより難しい登山ルートや登山口、ロープウェイ駅からの距離が長く日帰りに適さない登山ルート・自然の雰囲気保持を最優先とした登山ルート・登山者自らのリスク管理が必要とされ、高度な行動判断を要求される登山ルート
---	-----------	--

この区間は表大雪の中でも原始性が高い自然環境であり、縦走登山者が多く利用する区間です。登山口から日帰りも可能ですが、長時間の強行行程となります。稜線上に位置し、天候判断を自ら行い、最善の行動に向け判断する能力が要求されます。

この区間には、白雲岳避難小屋と白雲岳野営指定地があり、トイレも設置されています。原始性の高い自然の雰囲気保持を最優先とした管理を行います。



グレード3の事例：姿見園地～旭岳

	<p>グレード 3</p>	<p>大雪山の自然を体感する登山ルート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登山口、ロープウェイ駅からのアクセスが比較的良く、日帰り程度の距離で設定された登山ルート ・歩行の快適性よりも自然の雰囲気保持を優先した登山ルート ・登山者自らの一定のリスク管理が必要とされ、一定の行動判断を要求される登山ルート
---	-------------------	--


この区間は、旭岳登頂、旭岳から裾合平の周回、旭岳ロープウェイから黒岳ロープウェイ間の日帰り縦走等で利用されている大雪山のメインルートで、道内外から多くの登山者が訪れています。

この区間は、ガレ場*も出てくる風衝地*です。ルートは比較的明瞭ですが、悪天時には視界が著しく悪化しルート判別が難しくなります。そのため、濃霧になると旭岳からの下山時にルートを見失いやすく、遭難事故も発生しています。

ここでは、雄大な大雪山の自然の雰囲気を保ちながら管理を行います。



グレード2の事例：姿見園地～裾合平分岐


	<p>グレード 2</p>	<p>大雪山の自然とふれあう軽登山ルート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登山口、ロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的短距離で設定された登山ルート ・段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている登山ルート
---	-------------------	---

この区間は、姿見園地から裾合平の往復に利用されるほか、旭岳登頂の下山コースや黒岳からの縦走、愛山溪からの縦走に利用されています。夏山シーズン中はルートが明瞭で、こまめな登山道の保全修復作業が行われているため、歩きやすい道になっています。ただし、シーズン初めは雪渓が残っているため、旭岳ロープウェイ姿見駅のレクチャーを参考に慎重な行動が必要です。

ここでは、登山初級者が自然とのふれ合いを楽しむことができる、歩きやすく整備された道となるよう管理を行います。



グレード1の事例：紅葉谷入口～紅葉滝

	グレード 1	大雪山の自然とふれあう探勝ルート <ul style="list-style-type: none">・温泉施設やロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的高低差が少なく設定された一般観光利用者向けルート・段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている探勝ルート
---	-------------------	---

このルートは、層雲峡温泉から近く、紅葉谷入口から紅葉滝まで1時間程で往復できる高低差が少ない歩きやすい道です。柱状節理や紅葉滝、クマゲラ採餌木等を間近に観察でき、層雲峡温泉を訪れた観光客の散策やエコツアーに利用されています。

ここでは、一般観光客が自然とのふれ合いを楽しむことができるよう、一定の快適性が確保された道となるよう管理を行います。



2. 登山道の保全対策ランク

《登山道の保全対策ランクとは》

大雪山国立公園の登山道では、登山道周辺の自然環境を保全するとともに登山を末永く楽しむことができるよう、登山道及び登山施設に対する保全管理作業が、国と道、市町といった行政機関及び地元山岳会等の協力のもと行われています。また、近年は地域外の登山者・利用者からの協力を得て保全管理を行う機会も増えています。

総延長約300kmに及び大雪山国立公園の登山道を適切に管理するためには、登山者に提供する登山体験の程度等を定めた「大雪山グレード」を保全管理に携わる山岳関係者の間で共有し、登山道の区間毎の管理目標について共通の認識を持つとともに、登山道及び登山施設の現況を把握し、課題のある箇所の抽出を行い、課題の程度を評価することで、保全管理作業を進めるべき箇所の情報を共有することも重要です。

登山道の保全対策ランクは、登山道周辺の植生・地形の脆弱性及び登山道の荒廃の程度や整備状況等を勘察し、登山道周辺の自然植生や登山道及び登山施設の保全上の課題の程度を4つのランクに区分設定したものです。円滑な登山道・登山施設の保全管理を進めるため、登山道関係者間で定期的に会合を開催し、課題箇所の把握、保全管理の優先順位及び作業の段取りに活用します。また、保全対策ランクに応じ、当該区間の「大雪山グレード」に則し適用できる保全工法の有無の確認や登山利用状況等を勘察し、登山道や登山施設の保全修復の実施を検討します。



風衝地における侵食



登山道の複線化



木道整備による保全

《登山道の保全対策ランクの設定》

保全対策ランクは、登山道の荒廃等による脆弱な周辺植生への影響や、登山道の持続的な利用の機会を失うような影響といった、登山道の保全上の課題の程度を示したものです。

平成25年に実施した登山道の基礎調査をもとに、保全の必要性が高い自然植生（風衝地植物群落*、雪田群落*、高層湿原*、高山荒原群落*（風衝荒原*、雪田荒原*等））や地形（構造土*等の脆弱な周氷河地形*）といった脆弱性が高い箇所の抽出を行うとともに、登山道の荒廃程度と、この10年間の荒廃の進行状況及び既に整備された木道や階段工といった登山施設の老朽度を総合的に判断し4つの段階に評価し、自然条件と荒廃状況の組み合わせで4つのランクに当てはめて定めます。各登山道の区間毎のランク設定の詳細は『適用図・適用表』を参照して下さい。

保全対策ランクは、現地の状況に応じて定期的に更新していくものです。登山道関係者間で定期的な会合を開催し、新たな荒廃箇所や登山施設の老朽化箇所、整備箇所の把握を行い、適宜見直しを行います。

自然条件（植生・地形）	
1	保全の必要性の高い植生（風衝地植物群落、雪田群落、高層湿原、高山荒原群落）や地形（構造土等の脆弱な周水河地形）がある
2	保全の必要性の高い植生・地形に乏しい
荒廃状況（荒廃の程度、整備状況、木道等の状態、進行状況：地質、傾斜、利用圧）	
1	登山道に大規模な荒廃がある、または登山道周辺に影響が及んでいる。 あるいは、木道、階段工等登山施設の破損により通行困難な箇所が生じている。 この10年間で荒廃が急激に進行、あるいは、今後5～10年で著しい進行が予想される。
2	登山道に大規模な荒廃がある、または登山道周辺への影響が及んでいるものの、この10年の進行速度は遅く、今後5～10年での進行も遅いと予想される。 登山道に中規模、小規模な荒廃があり、この10年の進行速度は早く、今後5～10年で進行すると予想される。 あるいは、木道、階段工等登山施設の破損が見られる。
3	登山道に中規模、小規模な荒廃があり、この10年の進行速度は遅く、今後5～10年での進行も遅いと予想される。または現在侵食は少ないが潜在的危険性がある。 あるいは、木道、階段工等登山施設が整備されたが、登山施設周囲に小規模な侵食が見られる。
4	登山道内に荒廃した区間が少なく、この5～10年で拡大する危険性が低い。 あるいは、木道、階段工等登山施設の整備済みで概ね安定している。

- ※大規模な荒廃：幅3m以上、深さ・段差1m以上の侵食が複数ある
 中規模の荒廃：幅3m以上、深さ・段差1m以上の侵食が局所的にある、
 または、幅2～3m、深さ・段差0.6～1mの箇所が複数ある
 小規模な荒廃：幅2～3m、深さ・段差0.6～1mの侵食が局所的にある、
 または、幅2m未満、深さ・段差0.2～0.6mの荒廃箇所が複数ある

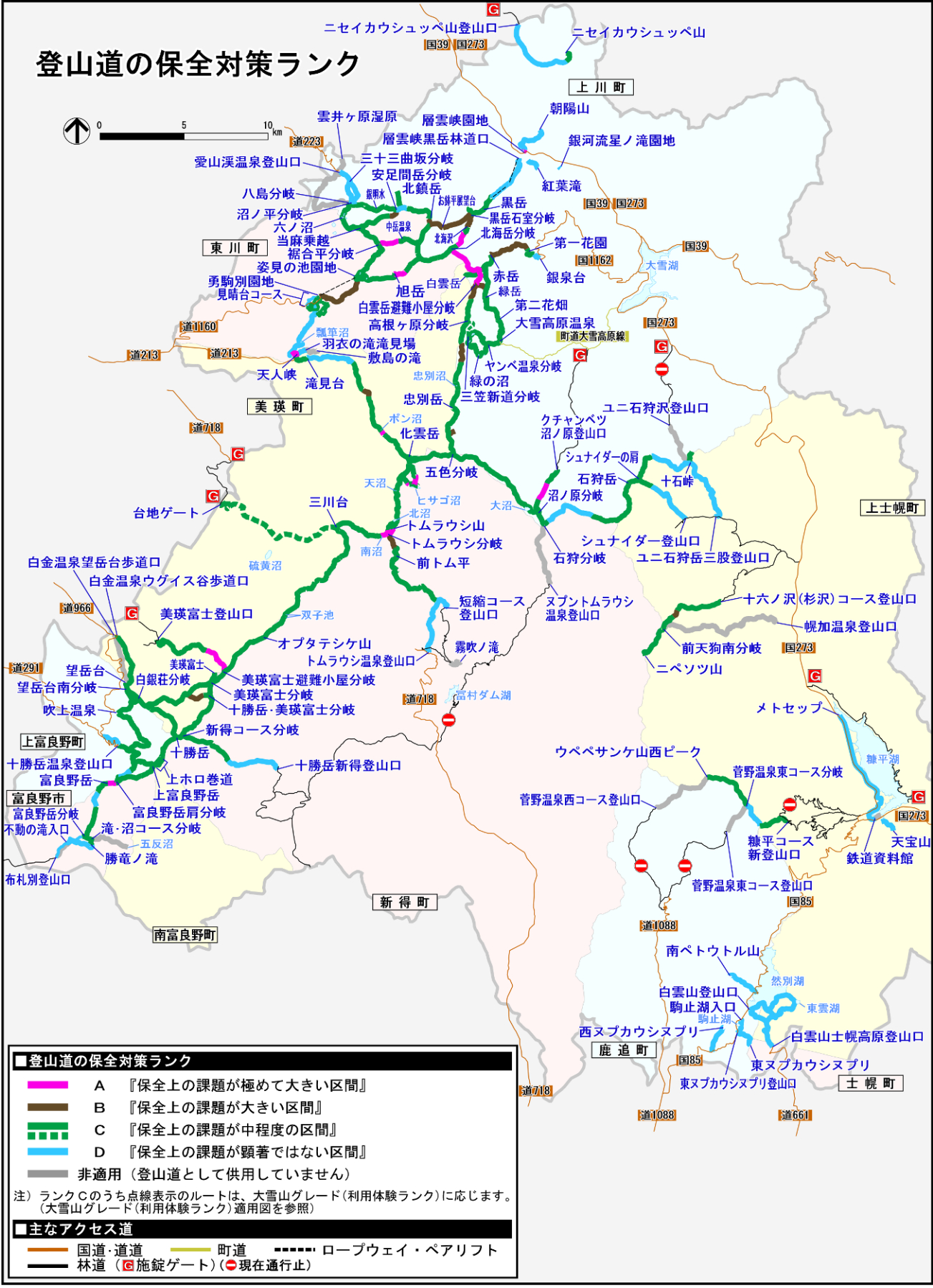
保全対策ランク（4段階）の設定：荒廃状況と自然条件の組み合わせ

荒廃状況 自然条件	1	2	3	4
1	A	B	C	C
2	A	C	D	D

保全対策ランク

A	保全上の課題が極めて大きい区間 <ul style="list-style-type: none"> 植生の保全の必要性の程度にかかわらず、大規模な荒廃があり急激に進行した。または、今後5～10年で著しく進む恐れがある。 植生の保全の必要性の程度にかかわらず、木道、階段工等登山施設の老朽化がひどい、通行困難箇所がある。
B	保全上の課題が大きい区間 <ul style="list-style-type: none"> 保全の必要性が高い植生において、大規模な荒廃があり、徐々に進行している。 保全の必要性が高い植生において、木道、階段工等登山施設の破損が見られる。
C	保全上の課題が中程度の区間 <ul style="list-style-type: none"> 保全の必要性が高い植生において、荒廃が中規模以下である。 保全の必要性が高い植生において、木道、階段工等登山施設が整備済みである。 保全の必要性の高い植生に乏しいが、大規模な荒廃があり、徐々に進行している。 保全の必要性の高い植生に乏しいが、木道、階段工等登山施設の破損が見られる。
D	保全上の課題が顕著ではない区間 <ul style="list-style-type: none"> 保全の必要性の高い植生に乏しい区間において荒廃が中規模以下である。 木道等登山施設が整備済みで木道、階段工等登山施設の破損が見られない。

登山道の保全対策ランク



登山道の保全対策ランク

- A 『保全上の課題が極めて大きい区間』
- B 『保全上の課題が大きい区間』
- C 『保全上の課題が中程度の区間』
- D 『保全上の課題が顕著ではない区間』
- 非適用（登山道として供用していません）

注）ランクCのうち点線表示のルートは、大雪山グレード（利用体験ランク）に応じます。
（大雪山グレード（利用体験ランク）適用図を参照）

主なアクセス道

- 国道・道道
- 町道
- ロープウェイ・ペアリフト
- 林道 (G) 施錠ゲート (●) 現在通行止

登山道の保全対策ランク 適用図

登山道の保全対策ランク（利用体験ランク併記）適用表（1）《I 北大雪地域》

大雪山グレード(利用体験ランク)		登山道の保全対策ランク		登山道の保全対策ランクの設定に関わる状況（右欄参照）	保全が必要な樹生	荒廃程度	進行具合	整備有無	整備後の状況
区間	ランク	ランク	区間						
ニセイカウシュツベ山登山口 ⇒ニセイカウシュツベ山	グレード3	D	ニセイカウシュツベ山登山口⇒㉗	・針葉樹林、ダケカンバ林、チシマザサ群落 ・小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	無	小	遅	無	—
		C	㉗⇒ニセイカウシュツベ山	・ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	中・小	遅	無	—
層雲峡園地 ⇒朝陽山	グレード3	A	層雲峡園地⇒㉘	・針葉樹林 ・大～中規模の侵食、著しく進行 ・未整備	無	大・中	早	無	—
		D	㉘⇒パノラマ台分岐⇒朝陽山	・針葉樹林、針広混交林、ダケカンバ林、チシマザサ群落 ・侵食はない、ヤブ化、倒木あり ・未整備、現在一部区間通行止め	無	—	—	無	—
パノラマ台分岐 ⇒パノラマ台	非適用	非適用	パノラマ台分岐⇒パノラマ台	・針葉樹林 ・パノラマ台周辺に危険箇所あり、閉鎖予定 ・未整備	無	—	—	無	—
銀河流星ノ滝園地	グレード1	D	銀河流星ノ滝園地	・針葉樹林 ・侵食はない ・駐車場等を含む園地整備、状態良好	無	—	—	有	良
紅葉谷入口 ⇒紅葉滝	グレード1	D	紅葉谷入口⇒紅葉滝	・針葉樹林 ・侵食はない ・未整備、管理された良好な道	無	—	—	無	—

登山道の保全対策ランク（利用体験ランク併記）適用表（2）《II 表大雪地域・1/2》

大雪山グレード(利用体験ランク)		登山道の保全対策ランク		登山道の保全対策ランクの設定に関わる状況（右欄参照）	保全が必要な樹生	荒廃程度	進行具合	整備有無	整備後の状況
区間	ランク	ランク	区間						
層雲峡黒岳林道口 ⇒黒岳(五合目園路を除く)	グレード2	D	層雲峡黒岳林道口⇒㉙五合目ロープウェイ駅舎付近	・針葉樹林、人工林 ・中～小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	無	中・小	安	無	—
		D	㉙五合目付近⇒㉚七合目付近	・チシマザサ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	無	小	安	無	—
		C	㉚七合目付近⇒黒岳	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり、チシマザサ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・土留整備済み、周囲に小規模な侵食あり、利用者が多く頻りに補修必要	有	小	安	有	小
黒岳 ⇒黒岳石室分岐	グレード3	C	黒岳⇒黒岳石室分岐	・保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり、ハイマツ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・石ステップ等あり、概ね良好	有	小	安	有	良
黒岳石室分岐 ⇒桂月岳	グレード3	C	黒岳石室分岐⇒桂月岳	・ハイマツ群落 ・大～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	無	大・中・小	遅	無	—
黒岳石室分岐 ⇒北海沢	グレード3	B	黒岳石室分岐⇒北海沢	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落 ・大～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留整備、小規模な侵食あるが概ね良好	有	大・中・小	遅	有	小
北海沢 ⇒北海岳分岐⇒間宮分岐	グレード4	C	北海沢⇒㉛	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落 ・問題ない道、雪渓が遅くまで残る ・未整備	有	—	—	無	—
		A	㉛⇒㉜	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり、ハイマツ群落 ・大～小規模な侵食あり、著しく進行 ・未整備	有	大・中・小	早	無	—
		C	㉜⇒北海岳分岐⇒㉝	・保全が必要な風衝地群落あり ・小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	小	遅	無	—
		C	㉝⇒間宮分岐	・保全が必要な風衝地群落あり ・問題のない道 ・未整備	有	—	—	無	—
黒岳石室分岐 ⇒お鉢平展望台	グレード3	B	黒岳石室分岐⇒お鉢平展望台	・保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり、ハイマツ群落 ・大～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留等整備、周囲に小規模な侵食あり、老朽化	有	大・中・小	遅	有	小老朽
お鉢平展望台 ⇒北嶺分岐⇒間宮分岐	グレード4	B	お鉢平展望台⇒㉞北嶺分岐	・保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり、ハイマツ群落 ・大～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留等整備、周囲に小規模な侵食あり、老朽化	有	大・中・小	遅	有	小老朽
		C	㉞北嶺分岐⇒㉟中岳分岐	・保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
		C	㉟中岳分岐⇒㊱	・保全が必要な風衝地群落あり ・大～中規模の侵食、概ね安定 ・土留等整備済み（H24年度）、概ね良好	有	大・中	安	有	良
		C	㊱⇒間宮分岐	・保全が必要な風衝地群落あり ・問題のない道 ・未整備	有	—	—	無	—
間宮分岐 ⇒旭岳	グレード4	C	間宮分岐⇒㊲裏旭から間宮分岐へのアプローチ点	・保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
		A	㊲裏旭から間宮分岐へのアプローチ点⇒旭岳	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落・高山砂礫地あり ・大～小規模の侵食、著しく進行 ・未整備	有	大・中・小	早	無	—

※大雪山グレード（グレード1～5）の「注」・「括弧付き」等は、『1. 大雪山グレード（利用体験ランク）』の適用表を参照して下さい（以下同じ）。

登山道の保全対策ランク（利用体験ランク併記）適用表（3）《Ⅱ表大雪地域・2/2》

大雪山グレード(利用体験ランク)		登山道の保全対策ランク		登山道の保全対策ランクの設定に関わる状況（右欄参照）	保全が必要な植生	荒廃程度	進行具合	整備有無	整備後の状況
区間	ランク	ランク	区間						
姿見の池園地 ⇒旭岳	グレード3	C	姿見の池園地⇒旭岳	・保全が必要な高山砂礫地あり ・小規模の侵食（登山道からの流出土砂が姿見の池に堆積）、徐々に進行 ・未整備	有	小	遅	無	—
愛山溪温泉霽井ヶ原入口 ⇒霽井ヶ原湿原	非適用	非適用	愛山溪温泉霽井ヶ原入口 ⇒霽井ヶ原湿原	・保全が必要な高層湿原あり、針葉樹林 ・小規模の侵食、概ね安定 ・木道整備済み、老朽化著しい	有	小	安	有	不全
愛山溪温泉登山口 ⇒沼ノ平分岐	グレード2	D	愛山溪温泉登山口⇒沼ノ平分岐	・針広混交林、タケカンバ林 ・小規模の侵食、概ね安定 ・石組、土留、木道等整備済み、周囲に小規模な侵食あるが概ね良好	無	小	安	有	小
三十三曲坂分岐 ⇒滝の上分岐	グレード3	D	三十三曲坂分岐⇒滝の上分岐	・針広混交林 ・小規模の侵食、概ね安定 ・石組、木道等整備済み、状態良好	無	小	安	有	良
愛山溪温泉登山口松仙園分岐 ⇒八島分岐	非適用	非適用	愛山溪温泉登山口松仙園分岐⇒八島分岐	・保全が必要な高層湿原あり、針葉樹林、チシマザサ群落 ・小規模の侵食、植生回復しヤブ化 ・現在通行止め	有	小	回	無	—
沼ノ平分岐 ⇒銀明水	グレード3	C	沼ノ平分岐⇒滝の上分岐⇒⑦	・ハイマツ群落、チシマザサ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留整備（一部）、概ね良好	無	中・小	遅	有	良
		C	⑦⇒銀明水	・ハイマツ群落、チシマザサ群落 ・大～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	無	大・中・小	遅	無	—
銀明水 ⇒北嶺分岐	グレード4	C	銀明水⇒⑦永山岳	・ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	中・小	遅	無	—
		C	⑦永山岳⇒④安足間岳分岐	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落・高山砂礫地あり ・問題ない道 ・未整備	有	—	—	無	—
		C	④安足間岳分岐⇒愛別岳分岐⇒②	・保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり ・問題ない道 ・未整備	有	—	—	無	—
		C	②⇒①北嶺岳	・保全が必要な風衝地群落・雪田群落・高山砂礫地あり ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	中・小	遅	無	—
愛別岳分岐 ⇒愛別岳	グレード4	B	①北嶺岳⇒北嶺分岐	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり ・大～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	大・中・小	遅	無	—
		C	愛別岳分岐⇒愛別岳	・保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり ・問題ない道 ・未整備	有	—	—	無	—
沼ノ平分岐 ⇒六ノ沼	グレード2	C	沼ノ平分岐⇒六ノ沼	・保全が必要な高層湿原あり、ハイマツ群落、チシマザサ群落 ・小規模の侵食、徐々に進行 ・木道、土留整備済み、概ね良好	有	小	遅	有	良
六ノ沼 ⇒榎合分岐	グレード3	C	六ノ沼⇒榎合分岐	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落、チシマザサ群落 ・小規模の侵食、徐々に進行 ・木道、土留整備済み、概ね良好	有	小	遅	有	良
榎合分岐 ⇒姿見の池園地	グレード2	C	榎合分岐⇒姿見の池園地	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落、チシマザサ群落 ・小規模の侵食、徐々に進行 ・木道、土留整備済み、補修され概ね良好	有	小	遅	有	良
当麻乗越 ⇒安足間岳分岐	グレード4	C	当麻乗越⇒⑦	・ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	中・小	遅	無	—
		B	⑦⇒④安足間岳	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり ・大～小規模の侵食（周辺植生への影響大）、徐々に進行 ・未整備	有	大・中・小	遅	無	—
		C	④安足間岳⇒安足間岳分岐	・保全が必要な風衝地群落あり ・小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	小	遅	無	—
榎合分岐 ⇒中岳温泉	グレード3	A	榎合分岐⇒⑦	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落 ・大～小規模の侵食、徐々に進行、一部で植生回復 ・木道整備済み、老朽化著しい	有	大・中・小	遅	有	不全
		C	⑦⇒中岳温泉	・ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり ・問題ない道 ・未整備	有	—	—	無	—
中岳温泉 ⇒中岳分岐	グレード4	C	中岳温泉⇒中岳分岐	・保全が必要な風衝地群落あり、ハイマツ群落 ・大～小規模の侵食、徐々に進行 ・H26年度整備箇所、概ね良好	有	大・中・小	遅	有	良
姿見の池園地	グレード1	C	姿見の池園地	・保全が必要な雪田群落・高山砂礫地あり ・小規模の侵食あり、概ね安定 ・土留等整備、小規模な侵食あるが概ね良好、利用多く頻繁な補修必要	有	小	安	有	小
勇駒別園地 ⇒姿見の池園地	グレード2	B	勇駒別園地⇒姿見の池園地	・保全が必要な雪田群落・高層湿原あり ・小規模の侵食、徐々に進行 ・木道土留整備、木道老朽化	有	小	遅	有	老朽
勇駒別園地 （見晴台コースを除く）	グレード1	C	勇駒別園地（見晴台コース・⑦⇒④・②⇒①を除く）	・保全が必要な高層湿原あり、針広混交林 ・問題ない道 ・階段等整備、概ね良好	有	—	—	有	良
		C	⑦⇒④	・針広混交林 ・問題ない道 ・橋、階段等整備、橋老朽化	無	—	—	有	老朽
		C	②⇒①	・保全が必要な高層湿原あり ・問題ない道 ・木道土留整備、概ね良好	有	—	—	有	良
見晴台コース	グレード2	D	見晴台コース	・針広混交林 ・問題ない道 ・未整備、一部ヤブ化	無	—	—	無	—
天人峽旭岳温泉方面登山口 ⇒勇駒別園地	グレード3	A	天人峽旭岳温泉方面登山口⇒⑦	・針広混交林 ・登山道が崩落、通行困難 ・未整備	無	大	早	無	—
		D	⑦⇒④	・針広混交林 ・問題ない道 ・未整備	無	—	—	無	—
		D	④⇒勇駒別園地	・針広混交林 ・問題ない道 ・木道整備、概ね良好	無	—	—	有	良
天人峽羽衣・敷島の滝入口 ⇒羽衣の滝滝見場	グレード1	D	天人峽羽衣・敷島の滝入口⇒羽衣の滝滝見場	・針広混交林 ・現在通行止め ・調査未実施	無	—	—	—	—
羽衣の滝滝見場 ⇒敷島の滝	非適用	非適用	羽衣の滝滝見場⇒敷島の滝	・針広混交林 ・現在通行止め ・調査未実施	無	—	—	—	—

登山道の保全対策ランク（利用体験ランク併記）適用表（4）《Ⅲ高根ヶ原地域》

大雪山グレード(利用体験ランク)		登山道の保全対策ランク		登山道の保全対策ランクの設定に関わる状況（右欄参照）	保全が必要な 植生	荒廃 程度	通行 具合	整備 有無	整備後 の状況
区間	ランク	ランク	区間						
北海岳分岐 ⇒白雲岳避難小屋分岐	グレード4	A	北海岳分岐⇒白雲岳避難 小屋分岐	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落・高山砂礫地あり、ハイマツ群落 ・大～小規模の侵食、進行著しい箇所あり ・未整備	有	大・ 中・ 小	早	無	—
白雲岳避難小屋分岐 ⇒忠別岳	グレード5	B	白雲岳避難小屋分岐⇒㉗	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、進行著しい箇所あり ・土留整備（一部）、状態良好	有	中・ 小	早	有	良
		C	㉗⇒高根ヶ原分岐⇒㉘	・保全が必要な風衝地群落あり、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	中・ 小	安	無	—
		B	㉘⇒㉙	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行、ぬかるみや水溜りひどい ・木道整備済み、部分的に老朽化	有	中・ 小	遅	有	老朽
		C	㉙⇒㉚	・ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり ・侵食はほとんどない ・未整備	有	—	—	無	—
		C	㉚⇒㉛	・ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり ・小規模の侵食あり、徐々に進行 ・木道整備済み、概ね良好だが木道の一部が老朽化	有	小	遅	有	老朽
		C	㉛⇒忠別岳	・ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり ・侵食はほとんどない ・未整備	有	—	—	無	—
銀泉台 ⇒第一花園	グレード2	D	銀泉台⇒㉜赤岳登山口	・針広混交林 ・侵食はない ・砂利道整備済み、状態良好	無	—	—	有	良
		C	㉜赤岳登山口⇒第一花園	・針広混交林 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留、ステップ工整備済み、土留周囲に小規模な侵食あり	無	中・ 小	遅	有	小
第一花園 ⇒赤岳	グレード3	C	第一花園⇒㉝	・保全が必要な雪田群落あり ・小規模な侵食（拡幅）、徐々に進行 ・未整備	有	小	遅	無	—
		B	㉝⇒赤岳	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、進行著しい箇所あり ・土留整備（一部）、周囲に小規模な侵食あり、一部老朽化	有	中・ 小	早	有	小 老朽
赤岳 ⇒白雲岳	グレード4	C	赤岳⇒白雲岳	・保全が必要な風衝地群落あり ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	中・ 小	遅	無	—
大雪高原温泉 ⇒第二花畑	グレード3	C	大雪高原温泉⇒第二花畑	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり、針広混交林、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留、木道等の整備多い、周囲に小規模侵食あり	有	中・ 小	遅	有	小
第二花畑 ⇒緑岳	グレード4	C	第二花畑⇒緑岳	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり、針広混交林、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留、木道等の整備多い、周囲に小規模侵食あり	有	中・ 小	遅	有	小
緑岳 ⇒小泉岳分岐 ⇒白雲岳避難小屋分岐	グレード4	C	緑岳⇒小泉岳分岐	・保全が必要な風衝地群落あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
		B	板垣新道分岐⇒白雲岳 避難小屋分岐	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり ・中～小規模の侵食進行、進行著しい箇所あり ・未整備	有	中・ 小	早	無	—
大雪高原温泉 ⇒ヤンベ温泉分岐⇒緑の沼	グレード2	C	大雪高原温泉⇒ヤンベ温 泉分岐⇒緑の沼	・針葉樹林、保全が必要な高層湿原あり ・問題ない道 ・木道土留整備済み、一部老朽化、頻繁な維持管理が必要	有	—	—	有	老朽
緑の沼 ⇒三笠新道分岐⇒ヤンベ温泉分岐	グレード3	C	緑の沼⇒三笠新道分岐⇒ ヤンベ温泉分岐	・針葉樹林、保全が必要な高層湿原あり ・小規模の侵食、進行遅い ・木道土留整備済み（一部）、一部老朽化、頻繁な維持管理が必要	有	小	遅	有	老朽
三笠新道分岐 ⇒高根ヶ原分岐	グレード5 (注)	C	三笠新道分岐⇒高根ヶ原 分岐	・保全が必要な雪田群落あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備：(注)ヒグマとの軋轢を避けるため夏山シーズンは通行止め	有	小	安	無	—

登山道の保全対策ランク（利用体験ランク併記）適用表（5）《IVトムラウシ山系・1/2》

大雪山グレード(利用体験ランク)		登山道の保全対策ランク		登山道の保全対策ランクの設定に関わる状況（右欄参照）	保全が必要な植生	荒廃程度	進行具合	整備有無	整備後の状況
区間	ランク	ランク	区間						
忠別岳 ⇒トムラウシ山	グレード5	C	忠別岳⇒㉔忠別岳避難小屋分岐⇒㉗五色分岐	・保全が必要な風衝地群落あり、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	中・小	遅	無	—
		C	㉗五色分岐⇒㉔	・ハイマツ群落 ・問題ない道 ・未整備	無	—	—	無	—
		C	㉔⇒化雲岳周辺⇒㉕ヒサゴ沼北分岐	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・木道整備、状態良好	有	小	安	有	良
		C	㉕ヒサゴ沼北分岐⇒㉖ヒサゴ沼南分岐	・ハイマツ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	無	小	安	無	—
		C	㉖ヒサゴ沼南分岐⇒㉗天沼	・保全が必要な風衝地群落あり、ハイマツ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・木道整備済み、状態良好	有	小	安	有	良
		C	㉗天沼⇒㉘北沼分岐	・保全が必要な風衝地群落あり、巨岩帯 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備、巨岩帯がルート不明瞭	有	中・小	遅	無	—
		C	㉘北沼分岐⇒トムラウシ山	・保全が必要な風衝地群落あり、ハイマツ群落、巨岩帯 ・中～小規模の侵食あり、徐々に進行 ・未整備、巨岩帯がルート不明瞭	有	中・小	遅	無	—
		B	㉔忠別岳避難小屋分岐⇒忠別岳南避難小屋	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	中・小	遅	無	—
		C	㉕ヒサゴ沼北分岐⇒㉖	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・木道整備済み、状態良好	有	小	遅	有	良
		C	㉖⇒㉗ヒサゴ沼避難小屋分岐	・保全が必要な雪田群落あり ・大～中規模の侵食（雪渓を避けて横線化）、進行著しい ・土留整備済み、破損し機能不全あり	有	大・中・小	早	有	不全
(ヒサゴ沼北分岐 ⇒ヒサゴ沼避難小屋分岐 ⇒ヒサゴ沼南分岐) ⇒ヒサゴ沼避難小屋	グレード5	C	㉗ヒサゴ沼避難小屋分岐⇒㉘	・保全が必要な雪田群落あり ・侵食はない ・木道整備済み、状態良好	有	—	—	有	良
		C	㉘ヒサゴ沼避難小屋分岐⇒ヒサゴ沼避難小屋	・保全が必要な雪田群落あり ・侵食はない ・木道整備済み、状態良好	有	—	—	有	良
		A	㉘⇒㉙	・保全が必要な雪田群落あり ・大規模の侵食（雪渓を避けて歩行）、進行著しい ・土留整備済み、周囲に小規模な侵食あり	有	大	早	有	小
		C	㉙⇒㉚ヒサゴ沼南分岐	・巨岩帯 ・問題ない道 ・未整備	無	—	—	無	—
		A	トムラウシ山⇒㉗	・保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり ・大～小規模の侵食、進行著しい ・未整備	有	大・中・小	早	無	—
		C	㉗⇒三川台⇒㉘	・ハイマツ群落、テシマザサ群落、保全が必要な風衝地群落あり ・小規模の侵食、概ね安定、ヤブ化（一部） ・未整備	有	小	安	無	—
トムラウシ山 ⇒オプタテケ山	グレード5	C	㉘⇒㉙	・ハイマツ群落、テシマザサ群落 ・小規模の侵食、概ね安定、ヤブ化（一部） ・未整備	無	小	安	無	—
		C	㉙⇒㉚	・ハイマツ群落、テシマザサ群落、低木群落 ・中規模の侵食、徐々に進行 ・鏡の設置あり、状態良好	無	中	早	有	良好
		C	㉚⇒㉛	・ハイマツ群落、テシマザサ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	無	小	安	無	—
		C	㉛⇒㉜	・ハイマツ群落、テシマザサ群落 ・小規模の侵食、概ね安定、ヤブ化（一部） ・未整備	無	小	安	無	—
		C	㉜⇒㉝	・ハイマツ群落、テシマザサ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	無	小	安	無	—
		C	㉝⇒㉞	・ハイマツ群落、テシマザサ群落、保全が必要な雪田群落あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
		C	㉞⇒オプタテケ山	・ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり ・中～小規模の侵食、ぬかるみ、徐々に進行 ・未整備	有	中・小	遅	無	—
		C	台地ゲート⇒三川台	・針広混交林、ダケカンバ林、ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備：(注)一般供用された登山道ではない	有	中・小	遅	無	—
天人峽化雲岳方面登山口 ⇒滝見台	グレード2	C	天人峽化雲岳方面登山口⇒滝見台	・針広混交林 ・侵食はほとんどない、倒木多い ・土留等整備済み、状態良好、崩れやすく頻りに補修が必要な場所	無	—	—	有	良
滝見台 ⇒化雲岳	グレード4	D	滝見台⇒㉗	・針広混交林 ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	無	小	安	無	—
		C	㉗⇒㉘	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落 ・小規模の侵食あり、ぬかるみ、概ね安定 ・木道、土留整備、侵食により土留破損、木道概ね良好	有	小	安	有	小不全
		B	㉘⇒㉙	・保全が必要な雪田群落あり、 ・大規模の侵食、ぬかるみひどい、徐々に進行 ・未整備	有	大	遅	無	—
		C	㉙⇒㉚小化雲岳直下(ボン沼南)	・ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり ・小規模の侵食、ぬかるみ、概ね安定、ヤブ化 ・未整備	有	小	安	無	—
		A	㉚小化雲岳直下(ボン沼南)⇒㉛	・保全が必要な風衝地群落あり ・大規模の侵食、進行著しい ・未整備	有	大	早	無	—
		C	㉛⇒化雲岳	・保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	中・小	遅	無	—

登山道の保全対策ランク（利用体験ランク併記）適用表（6）《Ⅳトムラウシ山系・2/2》

大雪山グレード(利用体験ランク)		登山道の保全対策ランク		登山道の保全対策ランクの設定に関わる状況（右欄参照）	保全が必要な植生	荒廃程度	進行具合	整備有無	整備後の状況
区間	ランク	ランク	区間						
クチャンベツ沼ノ原登山口 ⇒五色分岐	グレード4	C	クチャンベツ沼ノ原登山口⇒⑦	・針広混交林 ・小規模の侵食、近年付替えたルート、徐々に進行 ・土留整備、周囲に小規模侵食あり	無	小	遅	有	小
		A	⑦⇒④	・針広混交林、タケカンハ林 ・大～小規模の侵食あり、急激に進行（歩行困難な状態） ・土留整備、一部老朽化	無	大・中・小	早	有	老朽
		C	④⇒沼ノ原分岐⇒五色分岐	・針広混交林、保全が必要な高層湿原あり ・問題ない道 ・木道整備済み、概ね良好	有	—	—	有	良
スプトムラウシ温泉登山口 ⇒石狩分岐	非適用	非適用	スプトムラウシ温泉登山口⇒石狩分岐	・林道通行止め ・調査未実施	—	—	—	—	—
石狩分岐⇒沼ノ原分岐	グレード5	D	石狩分岐⇒沼ノ原分岐	・チシマザサ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	無	小	安	無	—
トムラウシ温泉登山口 ⇒前トム平	グレード4	D	トムラウシ温泉登山口⇒⑦温泉コース分岐	・針広混交林 ・中～小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	無	中・小	安	無	—
		C	⑦温泉コース分岐⇒④カムイ天上	・針広混交林 ・小規模の侵食、概ね安定 ・土留、排水等整備済み、周囲に小規模の侵食あり（妻補修・管理）	無	中・小	安	有	小
		C	④カムイ天上⇒⑤コマドリ沢出合	・針広混交林 ・中～小規模の侵食、ぬかるみ、近年付け替えた区間であり進行著しい ・木道、土留、ステップ、排水等整備、周囲に小規模の侵食あり	無	中・小	早	有	小
		C	⑤コマドリ沢出合⇒前トム平	・保全が必要な雪田群落・高層湿原あり、ハイマツ群落 ・問題ない道 ・未整備	有	—	—	無	—
前トム平 ⇒北沼分岐	グレード5	C	前トム平⇒⑦トムラウシ公園	・保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり、ハイマツ群落 ・問題ない道 ・未整備	有	—	—	無	—
		B	⑦トムラウシ公園⇒④	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落 ・大～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留、ステップ等整備、周囲に小規模の侵食あり	有	大・中・小	遅	有	小
		A	④⇒⑤トムラウシ分岐(西)	・保全が必要な雪田群落あり ・大規模の侵食、進行著しい ・未整備	有	大	早	無	—
		C	⑤トムラウシ分岐(西)⇒北沼分岐	・保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	中・小	遅	無	—
短縮コース登山口 ⇒温泉コース分岐	グレード4	D	短縮コース登山口⇒温泉コース分岐	・針広混交林 ・小規模の侵食、徐々に進行 ・土留整備、周囲に小規模の侵食あり	無	小	遅	有	小
霧吹ノ滝入口 ⇒霧吹ノ滝	非適用	非適用	霧吹ノ滝入口⇒霧吹ノ滝	・現在通行止め ・調査未実施（一部の調査実施）	無	—	—	無	—

登山道の保全対策ランク（利用体験ランク併記）適用表（7）《Ⅴ十勝岳地域・1/2》

大雪山グレード(利用体験ランク)		登山道の保全対策ランク		登山道の保全対策ランクの設定に関わる状況（右欄参照）	保全が必要な植生	荒廃程度	進行具合	整備有無	整備後の状況
区間	ランク	ランク	区間						
オプタテケ山 ⇒十勝岳 ⇒美瑛富士	グレード4	C	オプタテケ山⇒⑦十勝岳・美瑛富士分岐／美瑛富士	・保全が必要な風衝地群落・雪田群落・高山砂礫地あり、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	中・小	遅	無	—
		C	⑦十勝岳・美瑛富士分岐⇒十勝岳	・保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
十勝岳 ⇒富良野岳	グレード4	C	十勝岳⇒⑦上ホ口避難小屋分岐	・保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
		C	⑦上ホ口避難小屋分岐⇒④上ホ口山南分岐⇒②上富良野岳	・保全が必要な風衝地群落あり、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	有	中・小	遅	無	—
		C	⑦上ホ口避難小屋分岐⇒(上ホ口巻道)⇒④上ホ口山南分岐	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	中・小	安	無	—
		C	②上富良野岳⇒⑤	・保全が必要な風衝地群落あり、ハイマツ群落 ・問題ない道 ・未整備	有	—	—	無	—
		C	⑤⇒⑧富良野岳肩分岐	・ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留、ステップ等整備、状態良好	有	中・小	遅	有	良
		C	⑧富良野岳肩分岐⇒②	・ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり ・大規模の裸地あり、歩行部は整備済みで概ね安定 ・土留整備済み、状態良好	有	大	安	有	良
		A	②⇒富良野岳	・保全が必要な風衝地群落あり ・大～小規模の侵食が集中、進行早い ・未整備	有	大・中・小	早	無	—
富良野岳 ⇒布礼別登山口	グレード4	C	富良野岳⇒⑦	・保全が必要な風衝地群落あり ・中～小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	中・小	安	無	—
		D	⑦⇒④	・チシマザサ群落、低木群落 ・問題ない道、ぬかるみ ・未整備	無	—	—	無	—
		C	④⇒⑤富良野岳分岐	・針葉樹林、保全が必要な高層湿原あり ・前回調査の複線化箇所での植生回復、ぬかるみひどい ・未整備	有	—	回	無	—
		C	⑤富良野岳分岐⇒①	・針葉樹林、保全が必要な高層湿原あり ・中～小規模の侵食、ぬかるみ、概ね安定 ・未整備	有	中・小	安	無	—
D	①⇒布礼別登山口	・針広混交林 ・問題ない道 ・未整備	無	—	—	無	—		

登山道の保全対策ランク（利用体験ランク併記）適用表（8）《V十勝岳地域・2/2》

大雪山グレード(利用体験ランク)		登山道の保全対策ランク		登山道の保全対策ランクの設定に関わる状況（右欄参照）	保全が必要な 植生	荒廃 程度	通行 具合	整備 有無	整備後 の状況
区間	ランク	ランク	区間						
美瑛富士登山口 ⇒美瑛富士避難小屋分岐 ⇒美瑛富士避難小屋 ・オプタシケ方面分岐	グレード3	C	美瑛富士登山口⇒㉗	・針広混交林、針葉樹林、ダケカンバ林、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	無	中・小	遅	無	—
		A	㉗⇒美瑛富士避難小屋⇒美瑛富士避難小屋分岐、及び、美瑛富士避難小屋・オプタシケ方面分岐	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落 ・大～小規模の侵食、進行著しい ・土留整備、周囲に侵食が生じ機能不全	有	大・中・小	早	有	小不全
白金温泉望岳台歩道口 ⇒望岳台	非適用	非適用	白金温泉望岳台歩道口⇒望岳台	・針広混交林 ・中～小規模の侵食、進行著しい箇所あり ・旧スキーコース(望岳台歩道)	無	中・小	早	—	—
白金温泉ウグイス谷歩道口 ⇒望岳台	グレード2	C	白金温泉ウグイス谷歩道口⇒望岳台	・針広混交林 ・調査未実施	無	—	—	—	—
望岳台 ⇒十勝岳	グレード3	C	望岳台⇒十勝岳	・保全が必要な硫黄荒原群落・高山砂礫地あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
霧ノ平分岐 ⇒美瑛富士分岐 ⇒十勝岳・美瑛富士分岐	グレード3	C	霧ノ平分岐⇒㉗美瑛岳分岐	・ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・土留整備（ハイマツ帯の局所）、小規模な侵食	有	小	安	有	小
		C	㉗美瑛岳分岐⇒美瑛富士分岐	・保全が必要な雪田群落あり、ハイマツ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
		B	㉗美瑛岳分岐⇒㉘美瑛岳	・保全が必要な風衝地群落あり、ハイマツ群落 ・大～小規模の侵食、進行著しい（ハイマツ群落） ・未整備	有	大・中・小	早	無	—
		C	㉘美瑛岳⇒十勝岳・美瑛富士分岐	・保全が必要な風衝地群落あり ・問題ない道 ・未整備	有	—	—	無	—
吹上温泉十勝岳方面登山口 ⇒白銀荘分岐 ⇒望岳台南分岐	グレード2	C	吹上温泉十勝岳方面登山口⇒㉗泥流分岐⇒白銀荘分岐	・針葉樹林、ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落・硫黄荒原群落あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
		C	㉗泥流分岐⇒望岳台南分岐	・保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり ・中～小規模の侵食あり、徐々に進行（局所的に進行した箇所あり） ・未整備	有	中・小	遅	無	—
十勝岳温泉西分岐 ⇒十勝岳温泉吹上温泉方面口 ⇒旧国民宿舎	グレード2	D	十勝岳温泉西分岐⇒旧国民宿舎北分岐⇒十勝岳温泉吹上温泉方面口／旧国民宿舎	・針広混交林 ・問題ない道 ・未整備	無	—	—	無	—
吹上温泉三段山方面登山口 ⇒三段山分岐	グレード3	C	吹上温泉三段山方面登山口⇒三段山分岐	・針葉樹林、針広混交林、ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり ・中～小規模の侵食、概ね安定 ・土留整備、周囲に小規模侵食生じ老朽化	有	中・小	安	有	小老朽
十勝岳温泉登山口 ⇒上富良野岳 ⇒富良野岳肩分岐	グレード3	C	十勝岳温泉登山口⇒㉗上ホロ分岐	・針広混交林、チシマザサ群落、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、著しく進行 ・土留、排水整備、小規模侵食生じケール露出	無	中・小	早	有	小
		C	㉗上ホロ分岐⇒上富良野岳	・チシマザサ群落、ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落、風衝地群落あり ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留整備、周囲に小規模侵食あり	有	中・小	遅	有	小
		C	㉗上ホロ分岐⇒㉘	・チシマザサ群落、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留整備、周囲に小規模侵食あり	無	中・小	遅	有	小
		D	㉘⇒㉙	・チシマザサ群落、ハイマツ群落 ・問題ない道 ・未整備	無	—	—	無	—
		C	㉙⇒富良野岳肩分岐	・チシマザサ群落、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留整備、一部で小規模侵食が生じ機能不全状態	無	中・小	遅	有	小不全
十勝岳新得登山口 ⇒新得コース分岐	グレード4	D	十勝岳新得登山口⇒㉗滝下渡渉点	・針広混交林、ハイマツ群落 ・問題ない道、樹木あり ・未整備	無	—	—	無	—
		C	㉗滝下渡渉点⇒㉘	・ハイマツ群落 ・大～小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備	無	大・中・小	遅	無	—
		C	㉘⇒新得コース分岐	・保全が必要な風衝地群落あり、硫黄荒原 ・問題ない道、ルート不明瞭 ・未整備	有	—	—	無	—
布札別登山口分岐 ⇒不動の滝入口との連絡部	非適用	非適用	布札別登山口分岐⇒不動の滝入口との連絡部	・針葉樹林 ・調査未実施	有	—	—	—	—
不動の滝入口 ⇒勝竜ノ滝	グレード5	D	不動の滝入口⇒勝竜ノ滝	・針葉樹林 ・調査未実施	無	—	—	—	—
富良野岳分岐 ⇒勝竜ノ滝	グレード5	C	富良野岳分岐⇒滝・沼コース分岐⇒勝竜ノ滝	・保全が必要な高層湿原あり ・問題ない道 ・未整備	有	—	—	無	—
滝・沼コース分岐 ⇒五反沼	非適用	非適用	滝・沼コース分岐⇒五反沼	・保全が必要な高層湿原あり ・問題ない道、ヤブ化著しい、ルート不明瞭 ・未整備	有	—	—	無	—

登山道の保全対策ランク（利用体験ランク併記）適用表（9）《VI東大雪地域》

大雪山グレード(利用体験ランク)		登山道の保全対策ランク		登山道の保全対策ランクの設定に関わる状況（右欄参照）	保全が必要な植生	荒廃程度	進行具合	整備有無	整備後の状況
区間	ランク	ランク	区間						
ポニユニ石狩沢登山口 ⇒十石峠	非適用	非適用	ポニユニ石狩沢登山口⇒ 十石峠	・林道通行止め ・調査未実施（一部のみ調査実施）	—	—	—	—	—
十石峠 ⇒ユニ石狩岳	グレード3	C	十石峠⇒ユニ石狩岳	・ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
ユニ石狩岳三股登山口 ⇒十石峠	グレード3	D	ユニ石狩岳三股登山口⇒ 十石峠	・針広混交林、針葉樹林、ダケカンパ林、ハイマツ群落 ・問題ない道、倒木多い ・未整備	無	—	—	無	—
十石峠 ⇒シュナイダーの肩	グレード4	D	十石峠⇒㊦	・ハイマツ群落、ダケカンパ林 ・問題ない道、前回調査時の複線化箇所の一部で植生回復 ・未整備	無	—	回	無	—
		C	㊦⇒シュナイダーの肩	・ハイマツ群落、ダケカンパ林、保全が必要な風衝地群落あり ・問題ない道、前回調査時の複線化箇所の一部で植生回復 ・未整備	有	—	回	無	—
シュナイダー登山口 ⇒石狩岳	グレード4	D	シュナイダー登山口⇒㊧	・針広混交林、針葉樹林 ・小規模の侵食と路肩崩落、概ね安定 ・未整備	無	小	安	無	—
		C	㊧⇒石狩岳	・針広混交林、ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり ・中～小規模の侵食と路肩崩落、概ね安定 ・未整備、フィックスロープの設置あり	有	中・小	安	無	—
石狩岳 ⇒石狩分岐	グレード5	C	石狩岳⇒㊨	・保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり、ハイマツ群落、高山砂礫地 ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
		D	㊨⇒㊩	・ハイマツ、チシマザサ群落、ダケカンパ林 ・中～小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	中・小	安	無	—
		C	㊩⇒石狩分岐	・チシマザサ群落、保全が必要な高層湿原あり ・小規模の侵食あり、概ね安定 ・未整備、運内ルート不明瞭	有	小	安	無	—
十六ノ沢(杉沢)コース登山口 ⇒ニベソツ山	グレード4	C	十六ノ沢(杉沢)コース登山口⇒㊪	・針葉樹林、針広混交林、ダケカンパ林、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行 ・土留（一部）、概ね良好、倒木あり	無	中・小	遅	有	良
		B	㊪⇒㊫	・チシマザサ群落 ・大～小規模の侵食、進行著しい ・未整備	無	中・小	早	無	—
		C	㊫⇒㊬前天狗岳南分岐	・ハイマツ群落、巨石帯、保全が必要な風衝地群落あり ・問題ない道 ・未整備	有	—	—	—	—
		C	㊬前天狗岳南分岐⇒ニベソツ山	・保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり、ハイマツ群落 ・中～小規模の侵食、徐々に進行（一部） ・未整備	有	中・小	遅	無	—
梶加温泉登山口 ⇒前天狗南分岐	非適用	非適用	梶加温泉登山口⇒前天狗南分岐	・調査未実施（ルート不明瞭、一部のみ調査実施）	—	—	—	—	—
糠平コース新登山口 ⇒ウベサンケ山西ピーク	グレード3	C	糠平コース新登山口⇒㊭	・針葉樹林、針広混交林、ダケカンパ林 ・付替区間は侵食の進行著しい、以降は小規模の侵食、徐々に進行 ・未整備、付替区間以降は倒木あり	無	小	早	無	—
		D	㊭⇒㊮菅野温泉東コース分岐	・ハイマツ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	無	小	安	無	—
		C	㊮⇒㊯菅野温泉東コース分岐⇒ウベサンケ山西ピーク	・保全が必要な風衝地群落あり、ハイマツ群落 ・小規模の侵食、概ね安定 ・未整備	有	小	安	無	—
菅野温泉東コース登山口 ⇒菅野温泉東コース分岐	非適用	非適用	菅野温泉東コース登山口⇒ 菅野温泉東コース分岐	・林道通行止め ・調査未実施	—	—	—	—	—
菅野温泉西コース登山口 ⇒ウベサンケ山西ピーク	非適用	非適用	菅野温泉西コース登山口⇒ ウベサンケ山西ピーク	・林道通行止め ・調査未実施	—	—	—	—	—

登山道の保全対策ランク（利用体験ランク併記）適用表（10）《VII糠平然別地域》

大雪山グレード(利用体験ランク)		登山道の保全対策ランク		登山道の保全対策ランクの設定に関わる状況（右欄参照）	保全が必要な植生	荒廃程度	進行具合	整備有無	整備後の状況
区間	ランク	ランク	区間						
天宝山登山口 ⇒天宝山	グレード2	D	天宝山登山口⇒天宝山	・針広混交林、針葉樹林 ・小規模の侵食わずかにあり、概ね安定 ・未整備	無	小	安	無	—
軌道跡トンネル ⇒鉄道資料館	非適用	非適用	軌道跡トンネル⇒鉄道資料館	・北海道自然歩道として未供用	—	—	—	—	—
鉄道資料館 ⇒メトセツ	グレード1	D	鉄道資料館⇒メトセツ	・針広混交林 ・問題ない道 ・軌道跡を歩道整備、状態良好、倒木あり	無	—	—	有	良
南ベトトル山登山口 ⇒南ベトトル山	グレード2	D	南ベトトル山登山口⇒ 南ベトトル山	・針広混交林 ・侵食無いが、ヤブ化しルート不明瞭区間あり ・未整備	無	—	—	無	—
白雲山登山口 ⇒白雲山土幌高原登山口	グレード2	D	白雲山登山口⇒白雲山土幌高原登山口	・針広混交林、ダケカンパ林、高茎草本群落（ナキウサギ生息地） ・小規模の侵食、概ね安定、 ・未整備、ヤブ化、倒木あり	有	—	—	無	—
駒止湖入口 ⇒東ヌブカウシスプリ登山口	グレード1	D	駒止湖入口⇒東ヌブカウシスプリ登山口	・針広混交林、ダケカンパ林 ・侵食無いが、ヤブ化、倒木あり ・未整備	無	—	—	無	—
東ヌブカウシスプリ登山口 ⇒東ヌブカウシスプリ	グレード2	D	東ヌブカウシスプリ登山口⇒東ヌブカウシスプリ	・針葉樹林、針広混交林、チシマザサ群落 ・問題ない道 ・未整備	無	—	—	無	—
西ヌブカウシスプリ登山口 ⇒西ヌブカウシスプリ	グレード2	D	西ヌブカウシスプリ登山口⇒西ヌブカウシスプリ	・針広混交林、ダケカンパ林、巨岩帯 ・侵食無いが、ヤブ化、倒木あり ・未整備	無	—	—	無	—

3. 登山道管理水準の野営指定地、避難小屋への適用

《野営指定地、避難小屋への適用の考え方》

山岳地帯における野営指定地は、公園計画に基づく正式な野営場ではなく、登山による無秩序な野営が植生の破壊を引き起こしたり、ヒグマを誘引したりすることを防ぐため、環境省、林野庁、北海道（道有林を含む）及び市町の合意として設定しています。

野営指定地は、限定された範囲に対して高頻度の利用が断続的にあることから、利用圧を受けやすく、特にトイレのない野営指定地については排泄を行うための周辺植生への踏み込みによる裸地化等、影響が顕著に見られます。

野営指定地の配置や規模の変化・変更は、登山道利用に一定の影響を及ぼし、野営指定地周辺の植生に対しても大きな影響を及ぼすため、独自の保全対策ランクを設定することが必要です。また、周囲の大雪山グレードとの対応を踏まえ、保全管理を行うとともに、野営の現状、課題等を踏まえ配置や規模を変更する際には、周囲の大雪山グレード及び近接する野営指定地との配置の関係性を十分に考慮し検討する必要があります。

避難小屋施設は、荒天時の避難施設の役割を持つほか、黒岳石室、白雲岳避難小屋といった夏山シーズンに常駐管理人を配置した施設においては、隣接のトイレや野営指定地を含む施設管理や、登山者に対する登山マナーの啓発の機能を有しています。

宿泊可能な避難小屋はテントを持たずに山中泊の山行を可能とするため、その配置や規模、仕様の変更は、登山道利用に対して大きな影響を及ぼすため、周囲の大雪山グレードとの対応を踏まえた管理を行う必要があります。また、施設の現状、冬季遭難対策、防災対策等を踏まえての再整備、撤去、新規整備といった配置、規模、仕様の変更の際は、周囲の登山道の大雪山グレード及び他の避難小屋施設との配置の関係性を十分に考慮し検討する必要があります。



白雲岳避難小屋・野営指定地



南沼野営指定地

《野営指定地の保全対策ランクの設定》

野営指定地の保全対策ランクは、登山道同様、自然条件と荒廃状況から設定します。

平成25年に実施した登山道の基礎調査をもとに、自然条件では、風衝草原、雪田草原、高層湿原、構造土等の周氷河地形が発達した自然裸地といった自然環境の脆弱性が高く、保全の必要性の高い自然植生や地形に該当する箇所に立地するか否かの評価を行い、荒廃状況は野営指定地の荒廃程度と、この10年間の荒廃の進行状況から3つの段階に評価し、下表の組み合わせで4つのランクに当てはめて定めます。各野営指定地のランク設定の詳細は『適用表』を参照して下さい。

野営指定地保全対策ランク（3段階）の設定：荒廃状況と自然条件の組み合わせ

荒廃状況 自然条件	1	2	3
1	A	B	C
2	A	C	D

要因1：自然条件（植生・地形）	
1	保全の必要性の高い植生（風衝地植物群落、雪田群落、高層湿原、高山荒原群落）や地形（構造土等の脆弱な周氷河地形）がある
2	保全の必要性の高い植生・地形に乏しい
要因2：荒廃状況（荒廃の程度、整備状況（トイレを含む）、進行状況：地質、傾斜、利用圧）	
1	既存の指定地の傾斜、起伏、侵食、ぬかるみ等荒廃が著しく、野営困難な箇所が生じている。または10年間で荒廃が急激に進行、あるいは、今後5～10年で著しい進行が予想される。
2	既存の指定地の傾斜、起伏、侵食、ぬかるみ等荒廃が見られ、野営困難な箇所が限定的に生じている。この10年の進行速度は遅く、今後5～10年での進行も遅いと予想される。
3	既存の指定地の傾斜、起伏、侵食、ぬかるみ等荒廃が見られない、又は荒廃は小規模であり、野営利用への影響がない。

野営指定地の保全対策ランク

A	保全上の課題が極めて大きい区間 野営地の荒廃が著しく、野営困難な箇所が生じている。 登山者の野営や周辺植生への影響が生じている、懸念される。
B	保全上の課題が大きい区間 野営地の荒廃が見られ、野営困難な箇所が限定的に生じている。 周辺に保全対象となる植生があるため、周辺の自然環境への影響が懸念される
C	保全上の課題が中程度の区間 野営地の荒廃は見られない又は荒廃は小規模であり、登山者の野営への影響はないが、周辺に保全対象となる植生がある。 野営地の荒廃が見られ、野営困難箇所が限定的に生じているが、周辺には保全対象となる植生は見られない。
D	保全上の課題が顕著ではない区間 野営地の荒廃は見られない又は荒廃は小規模であり、登山者の野営への影響はない。周辺には保全対象となる植生は見られない。

野営指定地への適用表

種別	名 称	大雪山グレード (利用体験ランク)		野営指定地の 保全対策ランク
野 営 指 定 地	裏旭野営指定地	グレード4		B
	黒岳石室野営指定地	グレード3		C
	白雲岳野営指定地	グレード4	グレード5	C
	忠別岳南野営指定地	グレード5		D
	ヒサゴ沼野営指定地	グレード5		B
	南沼野営指定地	グレード5		B
	双子池野営指定地	グレード5		A
	美瑛富士野営指定地	グレード3	グレード4	D
	上ホロカメットク野営指定地	グレード4		C
	沼ノ原大沼野営指定地	グレード4		D
	ブヨ沼野営指定地	グレード4		D
	天狗のコル野営指定地	グレード4		D
避 難 小 屋	姿見の池避難小屋	グレード1	グレード3	—
	黒岳石室	グレード3		—
	白雲岳避難小屋	グレード4	グレード5	—
	忠別岳南避難小屋	グレード5		—
	ヒサゴ沼避難小屋	グレード5		—
	美瑛富士避難小屋	グレード3	グレード4	—
	十勝岳避難小屋	グレード3		—
	上ホロカメットク避難小屋	グレード4		—

※大雪山グレード（利用体験ランク）は、近接する区間の大雪山グレード（利用体験ランク）を示してあります。

4. 登山の心得

大雪山を訪れる多くの登山者が気持ちよく過ごし、自然環境や利用環境を守っていくためには、最低限のルールとマナーが必要です。また、遭難や火山の噴火等、万一の事故にも早急に対応できるよう、登山者に守ってほしい登山の心得を以下にまとめました。

〈登山の心得〉

- 大雪山の魅力が次世代に引き継ぐため、原生的な自然環境が損なわれないよう、環境保護に対する意識を高く持ち、行動しましょう。
 - ・登山道外へは立ち入らない。
 - ・登山道が残雪で覆われている場所では、案内ポールやロープに従う。
 - ・野営指定地以外での野営は行わない。
 - ・滑落等の危険がない場所では、登山ストック等の先端にキャップをつける。
 - ・携帯トイレを携行し、山にし尿やゴミ等を残さない。
 - ・山の管理をしている巡視員等の指導や指示に従う。

- みんなが快く登山できるよう、ルールやマナーを守り、譲り合いの精神を持って行動しましょう。

- 大雪山は自然条件が厳しく、自らの力で対処できる登山技術、登山道具、体力、知識や判断力が求められます。登山は自己責任であることを自覚し、しっかりと準備をしてから入山しましょう。

- 行き先・日程は必ず家族や知人等に知らせ、登山計画書を地元の警察署に提出しましょう。登山計画書は、北海道警察のホームページから入力できます。
<https://www.police.pref.hokkaido.lg.jp/info/chiiki/sangaku/sangaku-top.html>

補足. 大雪山の登山環境

《自然条件》

● 気象条件が厳しく、残雪期間が長い

気象条件は極めて厳しく、本州の3000m級の山岳環境に匹敵します。標高1893mの黒岳石室では、2013年8月（最暖月）の最低気温が2.4℃、最高気温が15.4℃でした。（平成25年度大雪山国立公園整備計画策定等基礎調査業務報告書より）

残雪期間が長く、7月中旬でも登山道の一部は雪渓で覆われています。融雪期には登山道に融雪水が流れ込み、登山者の踏圧による荒廃が進行します。また登山者が雪渓を避けるため周辺の雪田群落に踏み込み、植生が損傷した箇所も見られます。



雪渓に覆われた裏旭の登山道

● 稜線は脆弱な高山植生帯

比較的平坦な地形が広がる稜線は、脆弱な高山帯となっています。吹きさらしの稜線には、「構造土」と呼ばれる特殊な地形が見られます。ルート不明瞭な箇所も多く、広範な区間で構造土や植生に損傷が生じています。



「構造土」が広がる高根ヶ原

● 巨礫帯はルート不明瞭

火山噴火によって形成された巨礫帯は歩きにくく、ルートが不明瞭です。悪天候時には道を見失いやすいので注意が必要です。



巨礫で覆われたロックガーデン付近

● 脆弱な地質

大雪山の稜線の多くが、火砕堆積物で覆われた侵食を受けやすい地質です。雨水や融雪水は表面を流れず地下に浸透します。土中が凍結している時には、凍土面を浸透水が流れるため、土中の土砂が流出し、空洞化する現象が生じます。



脆弱な地質

《利用状況》

●融雪期に登山者が集中

一般的な登山シーズンは6月下旬～10月上旬です。高山植物の開花期と紅葉期に登山者が集中します。避難小屋や野営指定地の周辺は、特に利用が集中するため、登山道や植生へのダメージが深刻です。



利用ピーク時の白雲岳野営指定地

●稜線にトイレが少ない

大雪山の稜線にトイレは少なく、避難小屋（黒岳石室、白雲岳、忠別岳南、ヒサゴ沼、上ホロカメットク）にあるだけです。ただし南沼野営指定地、姿見の池避難小屋、前天狗岳には、携帯トイレブースがあります。



老朽化したヒサゴ沼避難小屋のトイレ棟

黒岳石室のバイオトイレは、利用が多すぎて十分に機能していません。その他のトイレも老朽化が進んでいます。トイレがない避難小屋や野営指定地の周辺では、環境への影響が生じています。



急激に侵食が進んだ北海岳北東の登山道

《荒廃状況》

●侵食が拡大し、高山植生が損失

高山帯の自然は脆弱で、大規模な荒廃が生じています。近年、集中豪雨により、侵食が急激に進んだ箇所があります。登山道周辺では、大規模な植生損失も見られます。



流出土砂が植生に堆積した天人峡の登山道

●木道や木製階段の破損

木道が老朽化し通行できない箇所、木製階段周辺に侵食が生じている箇所もあります。

●ヤブ化

登山口から遠い区間では、十分な管理が行えないため、ヤブ化してルート不明瞭な箇所があります。



川ようになった裾合平分岐付近の登山道

補足. 大雪山国立公園における登山道管理水準等検討会

(検討会 委員)

北海道大学・大学院農学研究院	愛甲 哲也
北海道大学・大学院地球環境科学研究院	工藤 岳
北海道大学・大学院地球環境科学研究院	渡邊 悌二
写真家	伊藤 健次
有限会社風の便り工房	佐藤 文彦
北海道山岳連盟	明田 通世
山のトイレを考える会	小枝 正人
北海道道央地区勤労者山岳連盟	沼田 祐司
株式会社りんゆう観光	植田 惇慈
北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室	小早川達也
山楽舎 BEAR	佐久間 弘

(管理水準作業部会 委員)

北海道大学・大学院農学研究院	愛甲 哲也
有限会社風の便り工房	佐藤 文彦
北海道山岳連盟	明田 通世
株式会社りんゆう観光	植田 惇慈

(オブザーバー)

(国)

北海道森林管理局計画保全部保全課
北海道森林管理局上川中部森林管理署
北海道森林管理局上川南部森林管理署
北海道森林管理局十勝西部森林管理署東大雪支署

(北海道)

北海道環境生活部環境局
上川総合振興局保健環境部
上川総合振興局南部森林室
十勝総合振興局保健環境部
北海道教育庁上川教育局
北海道教育庁十勝教育局

(市町村)

富良野市
南富良野町
富良野町
上川町
東川町
美瑛町
上士幌町
士幌町
鹿追町
新得町

(事務局)

環境省北海道地方環境事務所
上川自然保護官事務所 東川自然保護官事務所 上士幌自然保護官事務所

大雪山に関する情報

■大雪山に関する総合情報	
大雪山国立公園連絡協議会	http://www.daisetsuzan.or.jp/
■現地で登山情報を入手できる場所	
層雲峡ビジターセンター	〒078-1701 上川町層雲峡 TEL 01658-9-4400
旭岳ビジターセンター	〒071-1472 東川町勇駒別（旭岳温泉） TEL 0166-97-2153
ヒグマ情報センター	〒078-1701 上川町層雲峡（高原温泉） 〈層雲峡ビジターセンター又は上川町役場にお問合せ下さい〉
ひがし大雪自然館	〒080-1403 上士幌町ぬかびら源泉郷 48 番地 2 TEL 01564-4-2323
黒岳ロープウェイ 山麓駅（層雲峡駅）	〒078-1701 上川町層雲峡 TEL 01658-5-3031
旭岳ロープウェイ 山麓駅（旭岳駅）	〒071-1472 東川町勇駒別（旭岳温泉） TEL 0166-68-9111
■行政機関（※）	
上川町	TEL 01658-2-1211（代）
東川町	TEL 0166-82-2111（代）
美瑛町	TEL 0166-92-1111（代）
上富良野町	TEL 0167-45-6400（代）
富良野市	TEL 0167-39-2300（代）
南富良野町	TEL 0167-52-2112（代）
上士幌町	TEL 01564-2-2111（代）
士幌町	TEL 01564-5-2211（代）
鹿追町	TEL 0156-66-2311（代）
新得町	TEL 0156-64-5111（代）
北海道生活部環境局生物多様性保全課	TEL 011-231-4111（代）
上川総合振興局保健環境部	TEL 0166-46-5900（代）
上川総合振興局南部森林室	TEL 0166-46-5998（代）
十勝総合振興局	TEL 0155-26-9005（代）
林野庁北海道森林管理局	TEL 011-622-5213（代）
上川中部森林管理署	TEL 0166-61-0206（代）
上川南部森林管理署	TEL 0167-52-2772（代）
十勝西部森林管理署東大雪支署	TEL 01564-2-2141（代）
環境省北海道地方環境事務所	TEL 011-299-1950（代）
上川自然保護官事務所	TEL 01658-2-2574
東川自然保護官事務所	TEL 0166-82-2527
上士幌自然保護官事務所	TEL 01564-2-3337
■その他	
十勝岳火山砂防情報センター	TEL 0166-94-3301
国土交通省 川の防災情報（北海道地方）	http://www.river.go.jp/81.html
気象庁（天気予報）	http://www.jma.go.jp/jp/yoho/
日本気象協会（山の天気）	http://www.tenki.jp/mountain/
旭川東警察署	TEL 0166-34-0110
富良野警察署	TEL 0167-22-0110
帯広警察署	TEL 0155-25-0110
新得警察署	TEL 0156-64-0110

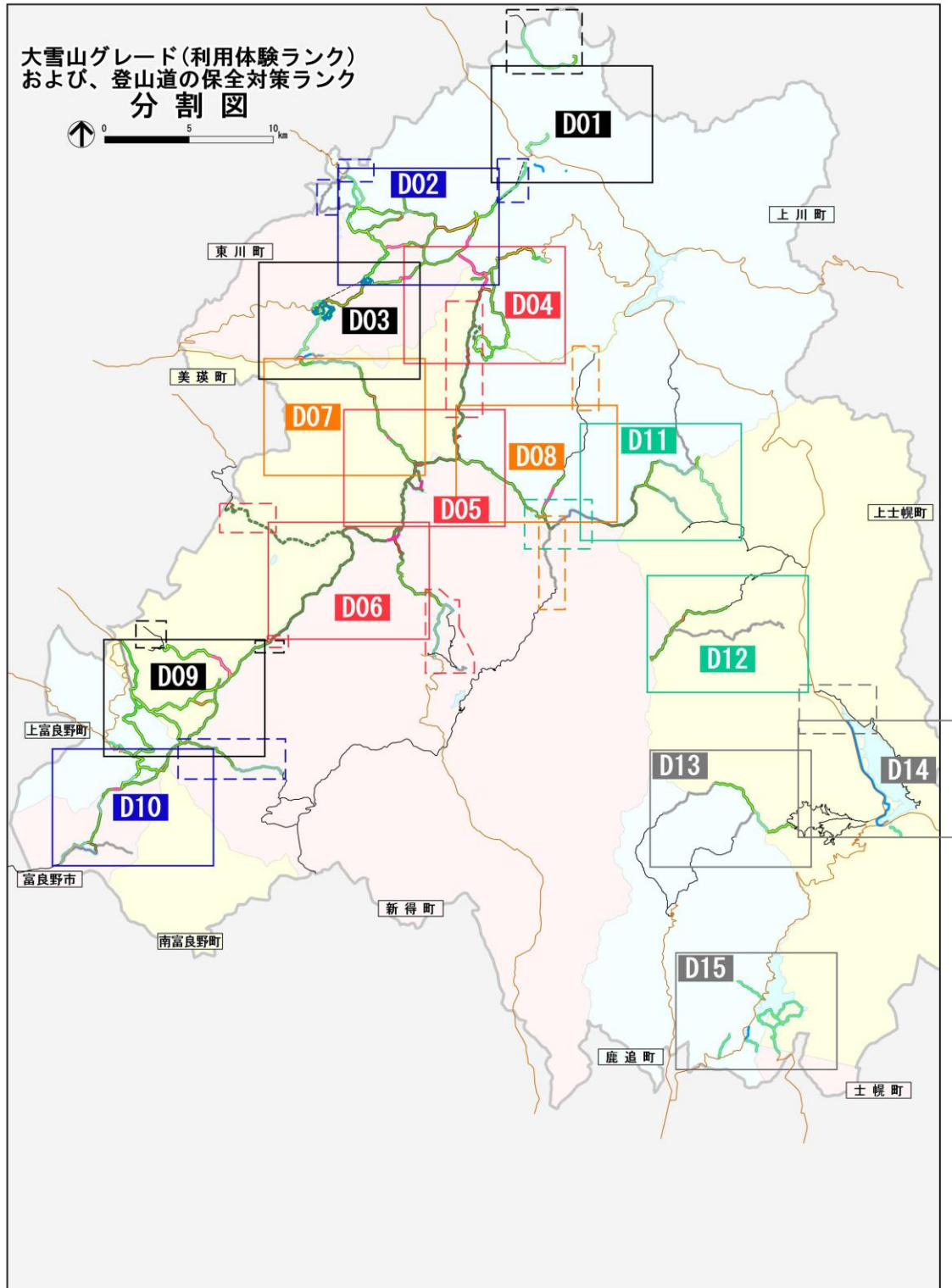
※国有林への入山や林道利用の申請手続き等については林野庁の各森林管理署、道有林への入山や林道利用の申請手続き等については上川総合振興局南部森林室、国立公園一般については環境省の各自然保護官事務所が担当しています。

用語集

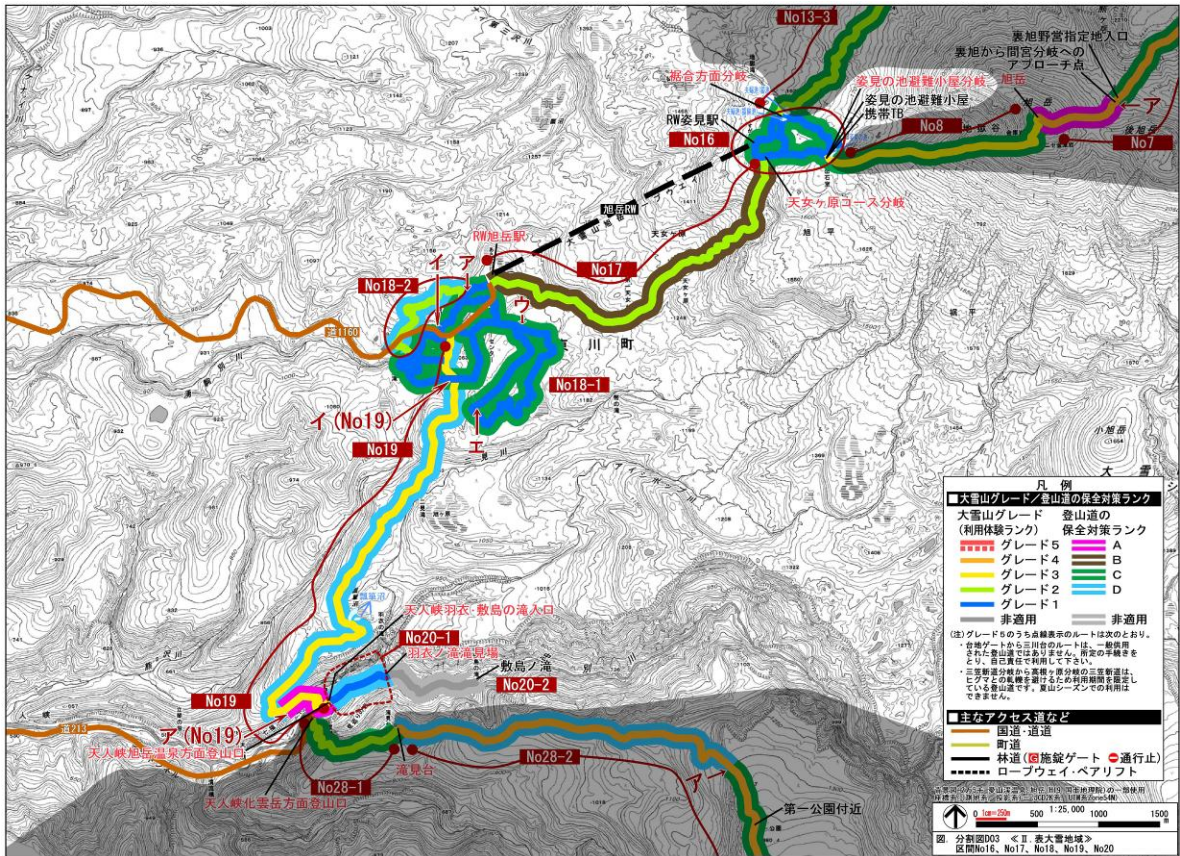
保全管理	「保全管理」は、登山道や周辺の植生を守ったり、道迷いを防止したりする行為。登山道の侵食した箇所や土留めや階段を作ったり、ぬかるみ箇所に木道を設けたりする工事の他、工事で作られた階段や木道の補修作業、道迷い防止のための刈払いやマーキング、登山道の外への踏み込みを防止するためのロープ張り及び登山道の状態や利用状況を見守るパトロールなどの維持管理行為が含まれる。
登山道	登山するための道。ルートと地道を指す。
登山施設	登山道や周辺に設置された構造物（階段、土留、避難小屋、山岳トイレ等）を指す。
協働型管理	登山道を1つの機関・団体が管理するのではなく、複数の行政機関や地域内外の山岳会等の民間団体や有志の協力で行う管理方法。地域や組織が横断的に協力し合って行う維持管理行為。対策の必要性の判断をはじめ施工方法の検討、施工実施、効果検証などあらゆる段階での参画を想定する。
野営指定地	無秩序な野営による植生の破壊やヒグマの誘引を防ぐため、関係行政機関の合意により認められている野営場所（キャンプ指定地）。
路線	公園計画に指定されている歩道に加え、森林施業のための作業歩道のように登山利用を想定していないが一定の利用が見られる道を含む。
公園計画	国立公園の保護と利用を適切に促進するために公園ごとに定められている計画。公園計画には、様々な国立公園の利用のなかから、この国立公園の利用としてふさわしいものをとりあげ、その施設の配置と整備方針が定められている。公園計画における歩道の配置は、利用者層や自然条件等、地域の特性にあった徒歩の利用を確保するため、利用実態、自然性や眺望、既にあるルートなどを総合的に勘案して設定されている。
廃道	閉鎖され使われなくなった道。 ただし、管理水準非適用箇所は、現在ほぼ利用されない等の理由からレベル分けすることが困難な道を示し、廃道と同義ではない。
管理者不在	登山道の保全管理者が不明確な状態。
原始性	自然そのままの状態。人為性がない、手つかずの状態。
静寂度	静かでひっそりとしている程度。
行動判断	悪天候時等に危険を予測してどのように行動すべきか判断すること（停滞、引き返す、前進等）。
夏山シーズン	初夏の山開きから、秋の林道のゲートが閉まるまでの期間。大雪山では、例年6月下旬～10月上旬。
エスケープ	登山中に悪天候に遭遇したり、事故等がおこった場合に緊急的に下山を行うこと。エスケープルートは、この際に利用できるルートのこと。
徒渉	川や沢などを歩いて渡ること。
段差処理	登山道に大きな段差が生じている箇所の段差を解消する処置のこと。石積みや木階段を設置し、段差の中間にステップを作るなどして対処する。
指導標識	登山道の分岐点などで進行方向と目的地を示すために設置される標識。
ガレ場	大小さまざまな石が散乱する礫地。不安定な石が多い。

風衝地	山頂や稜線付近など、強風のため冬季に雪が吹き飛ばされて積雪がほとんどない場所。
風衝地植物群落	風衝地矮性低木群落（ウラシマツツジ、クロマメノキ、ミネズオウ、コメバツガザクラ、等の木本を主とする）と、草本を主とする高山風衝草原がある。風当たりが強く積雪の少ない尾根部などに分布する。
雪田群落	冬の季節風の風下にあたり、雪が多く雪渓が遅くまで残る場所に分布する群落。イワイチョウ、エソコザクラ、アオノツガザクラ、チングルマ等が見られる。
高層湿原	低温・過湿のために枯死したミズゴケが分解されず泥炭となり、それが多量に蓄積されて周囲よりも高くなったために地下水では涵養されず、雨水のみで維持されている貧栄養な湿原。
高山荒原群落	土壌の移動が激しい周氷河性斜面、バミスやスコリアで覆われた地表面等に分布する群落。コマクサ、イワブクロ等が見られる。
風衝荒原	強風のため裸地化している稜線上の鞍部等の風衝砂礫地。
雪田荒原	雪渓が最も遅くまで残る雪田の底。
周氷河地形	気温が0℃を上下する日数の多い寒冷な地域で、表層の水分が凍結・融解を繰り返すことにより岩石の破壊・流動が起こって形成される特有な地形。
構造土	地表面に円形・多角形・網状・縞模様などの幾何学模様が現れている土壌のこと。長年の凍結・融解作用によって生じた周氷期地形のひとつ。

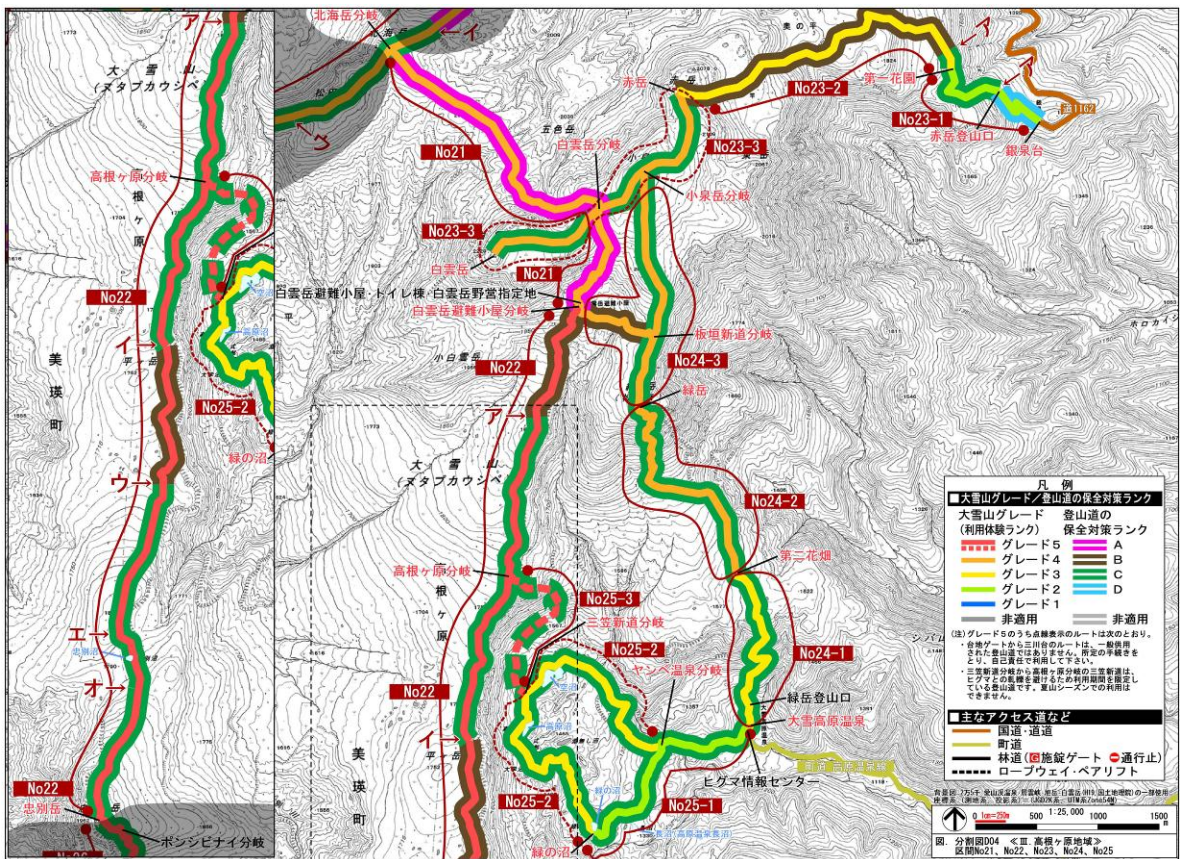
分割図



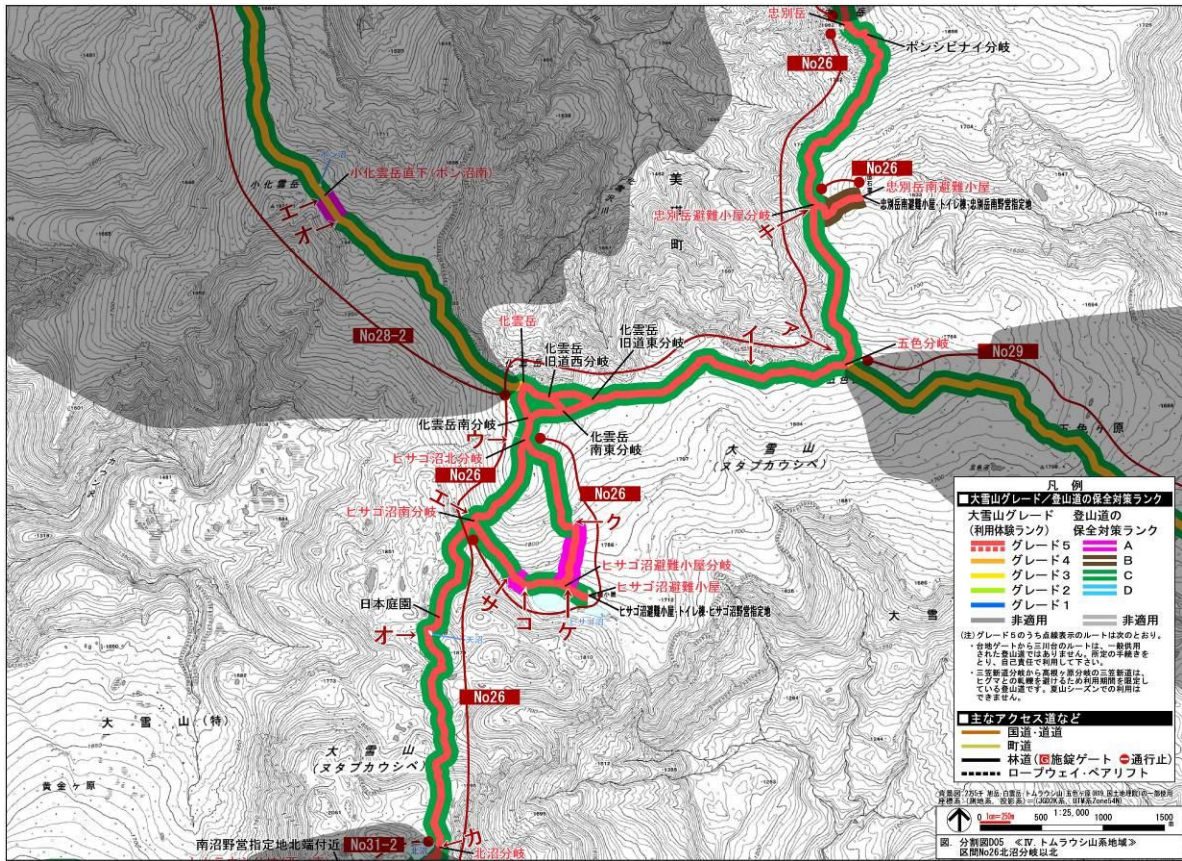
D03



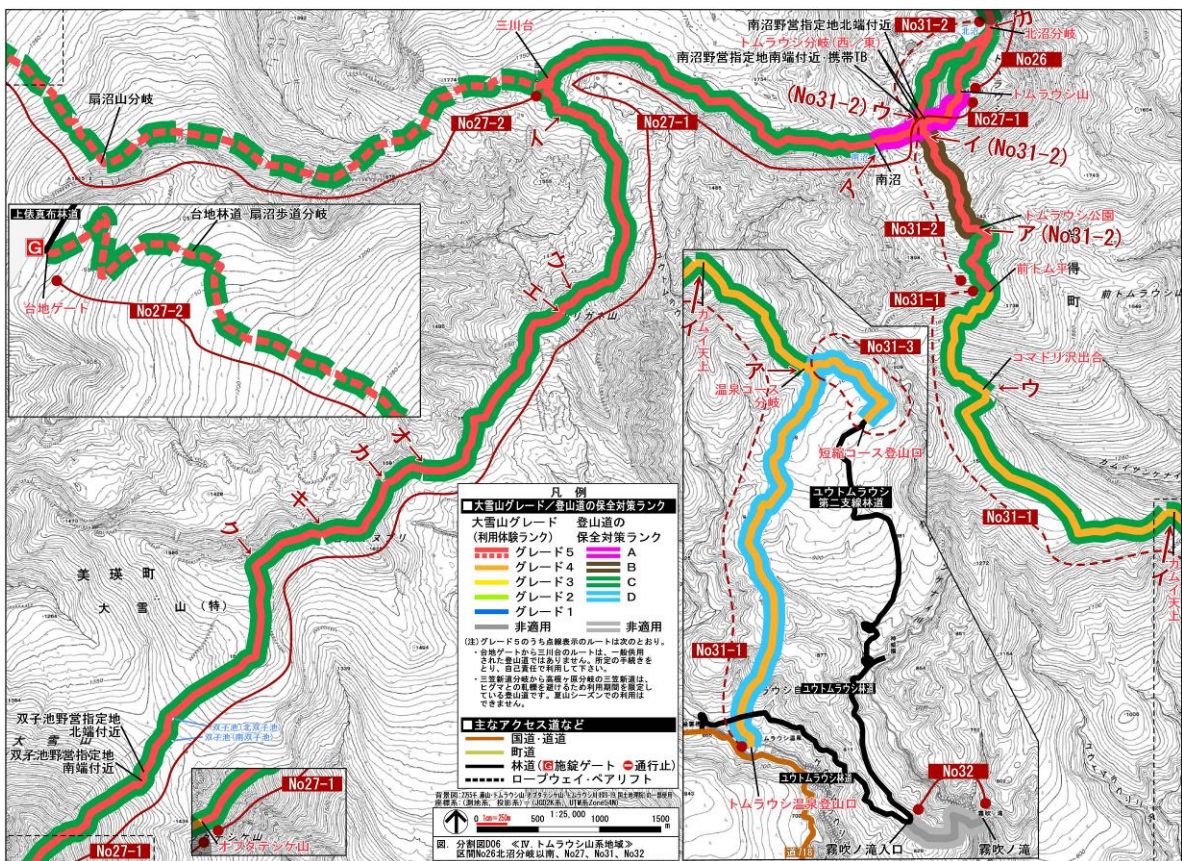
D04



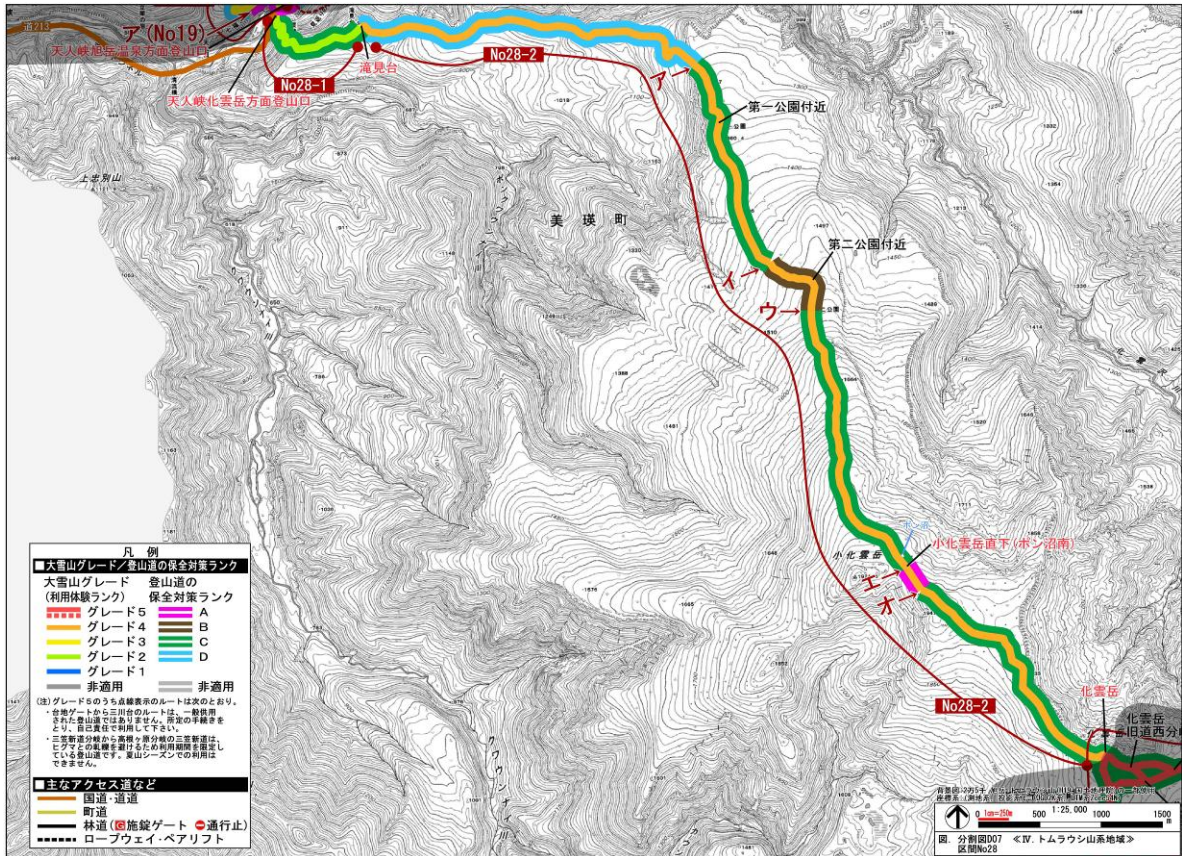
D05



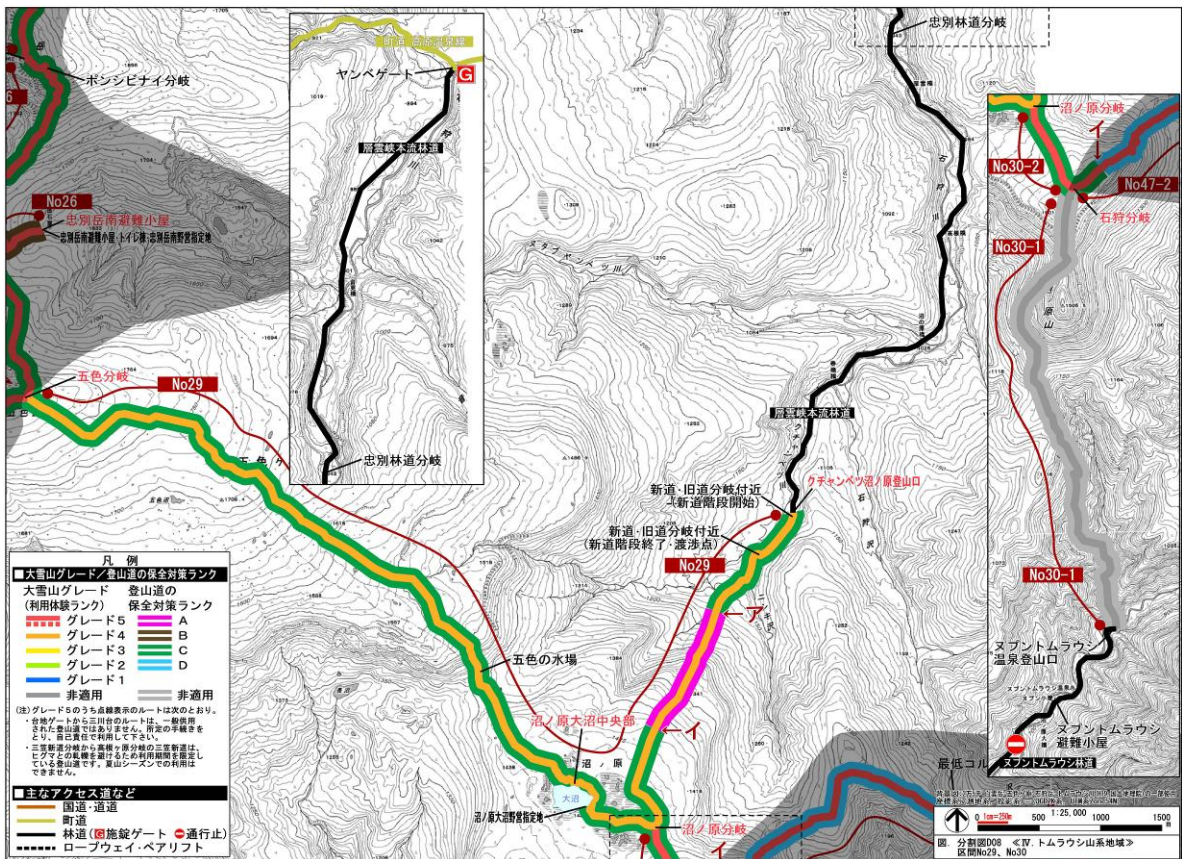
D06



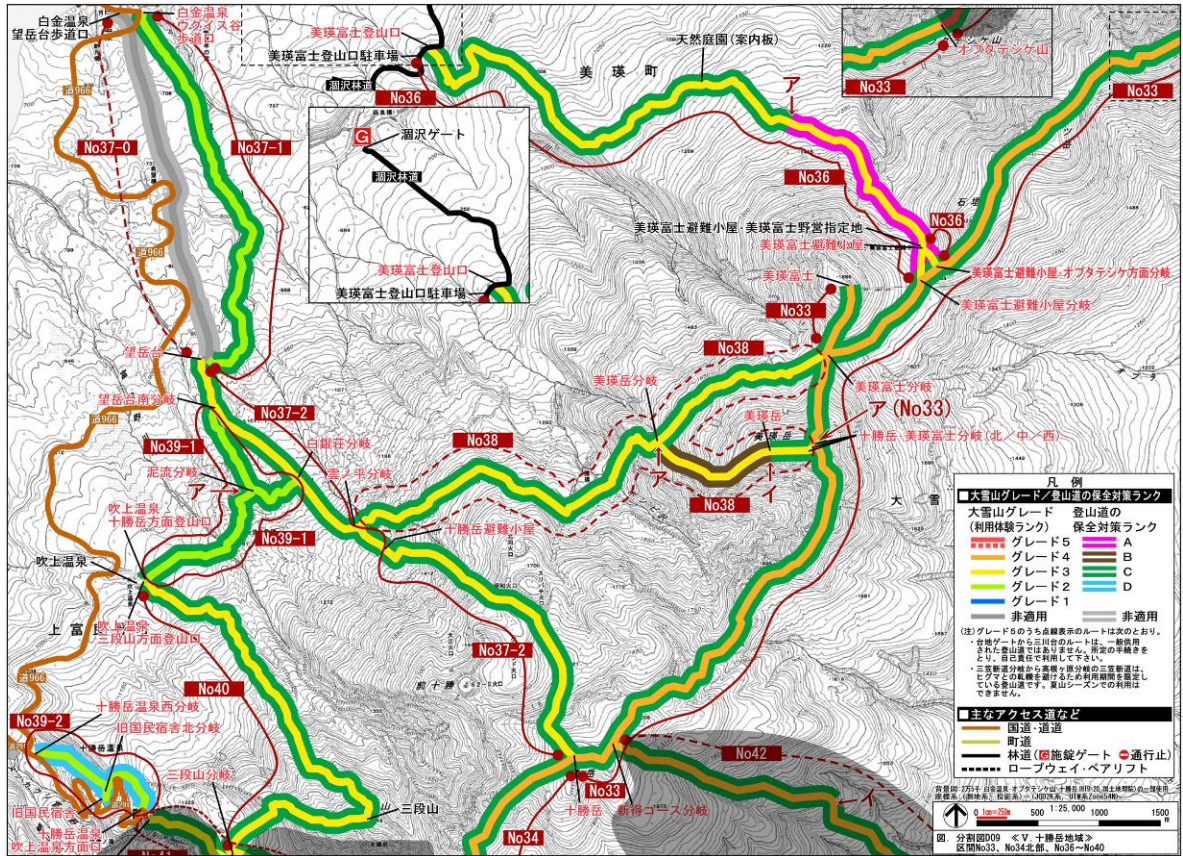
D07



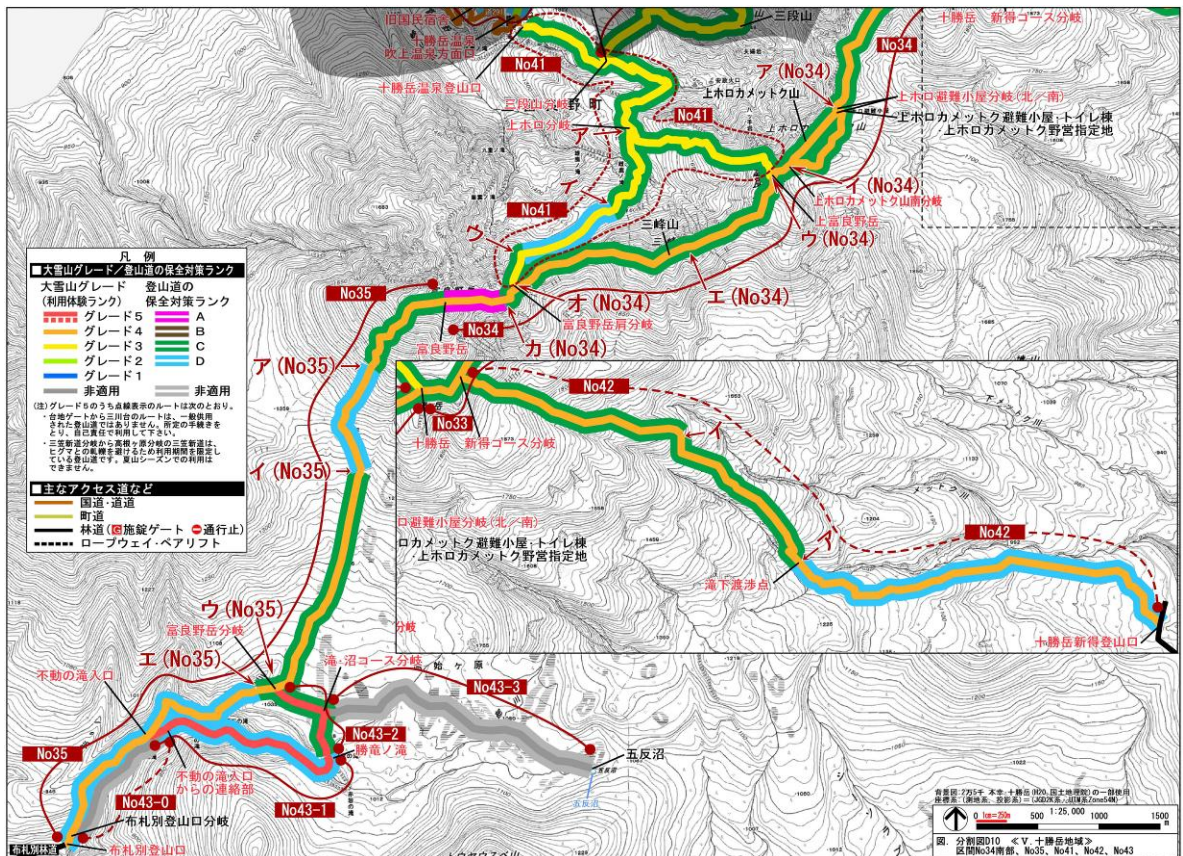
D08



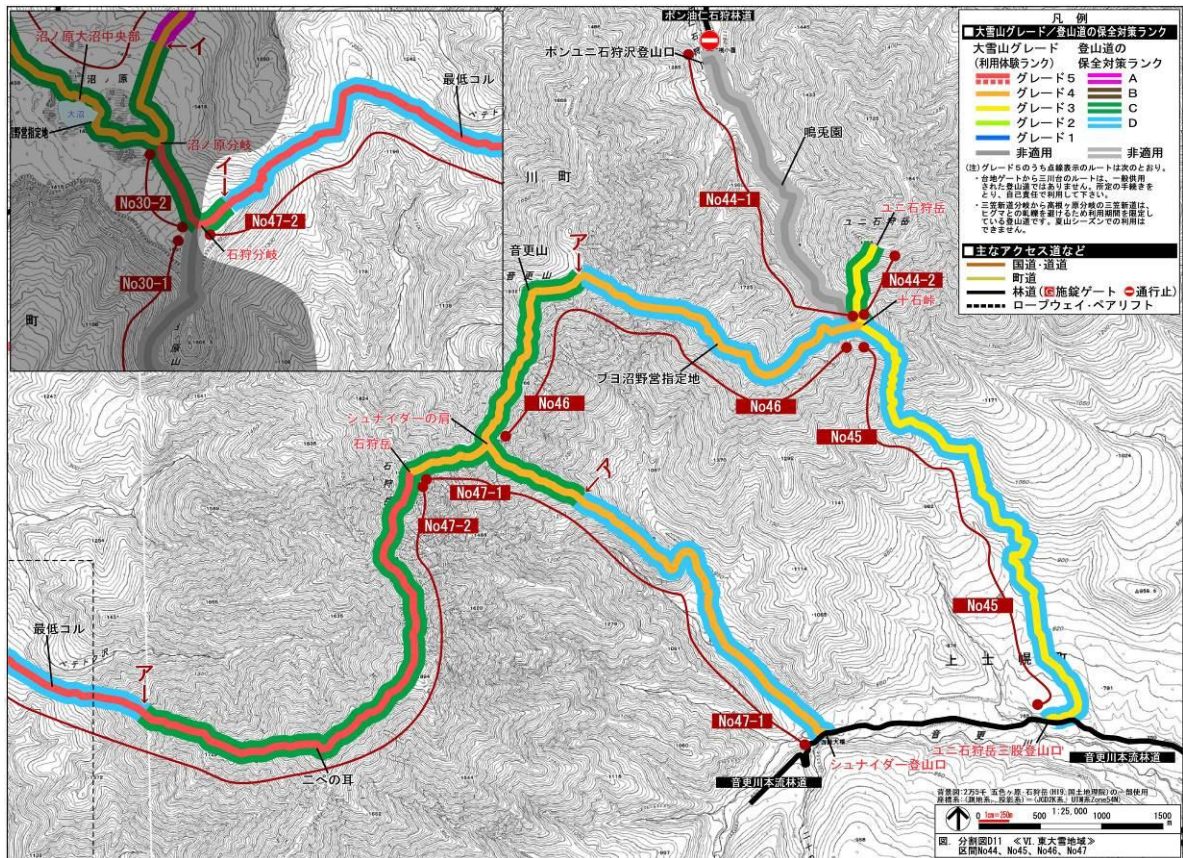
D09



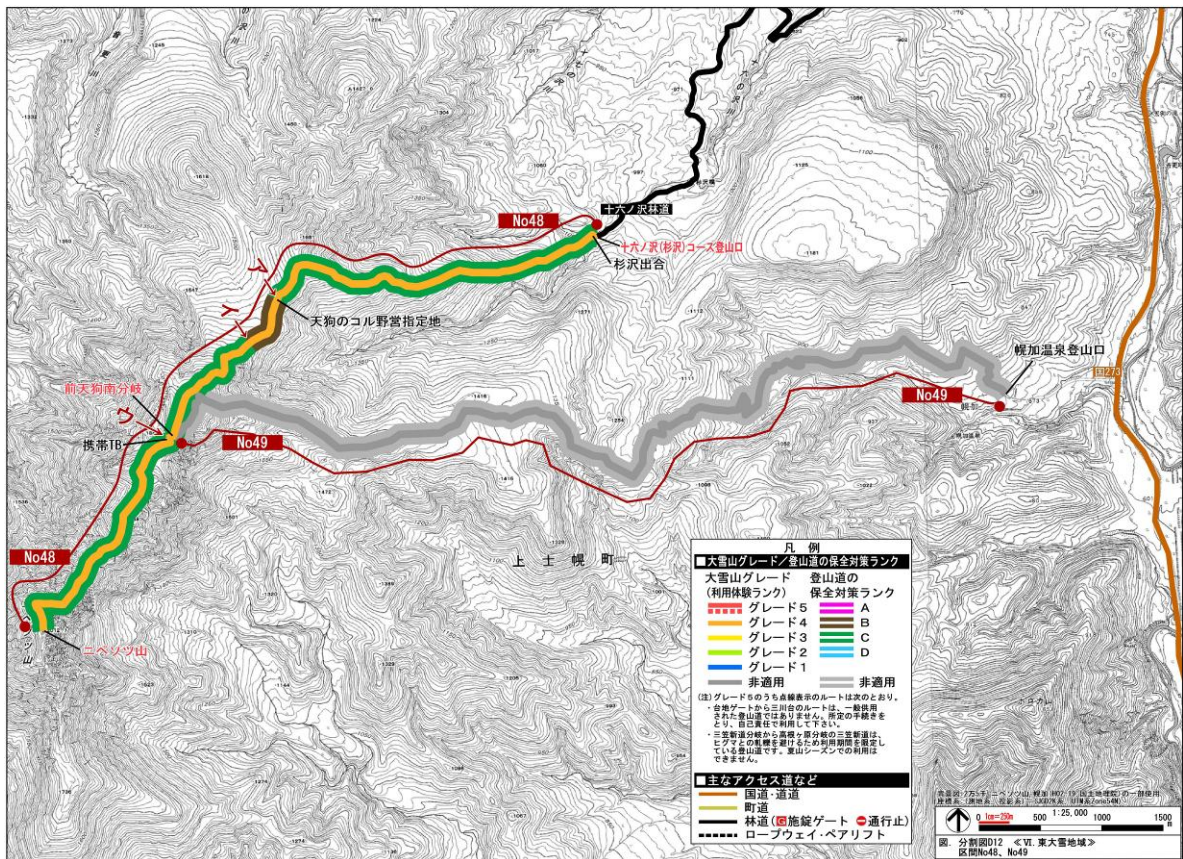
D10



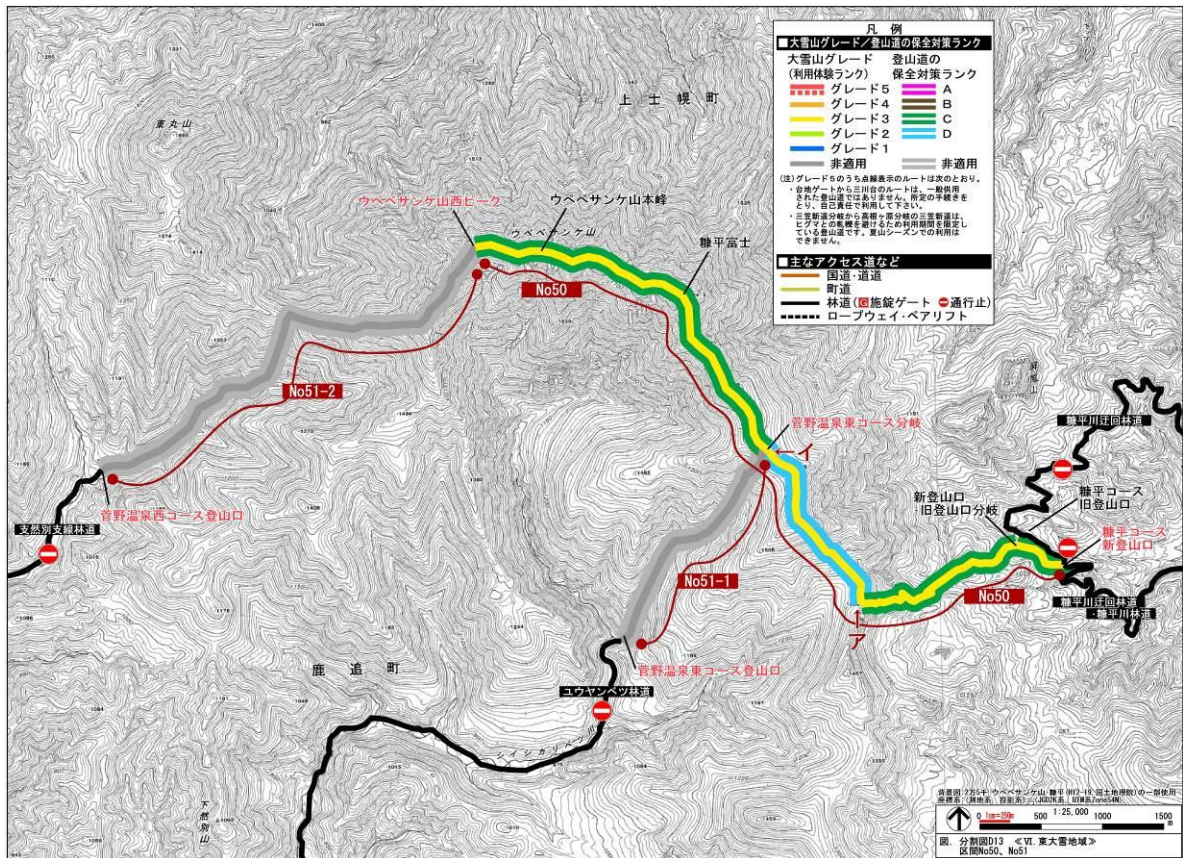
D1 1



D1 2



D13



D14

